

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	コクリツダゲイブクホジケン クマモトダゲイブク 国立大学法人 熊本大学									
フリガナ大学の名称	クマモトダゲイブク 熊本大学 (Kumamoto University)									
大学本部の位置	熊本県熊本市中央区黒髪二丁目39番1号									
大学の目的	<p>1. 教育 個性ある創造的人材を育成するために、学部から大学院まで一貫した理念のもとに総合的な教育を行う。学部では、幅広く深い教養、国際的対話力、情報化への対応能力及び主体的な課題探求能力を備えた人材を育成する。大学院では、学部教育を基盤に、人間と自然への深い洞察に基づく総合的判断力と国際的に通用する専門知識・技能とを身につけた高度専門職業人を育成する。また、社会に開かれた大学として、生涯を通じた学習の場を積極的に提供する。</p> <p>2. 研究 高度な学術研究の中核としての機能を高め、最先端の創造的な学術研究を積極的に推進するとともに、人類の文化遺産の豊かな継承・発展に努める。また、総合大学の特徴を活かして、人間、社会、自然の諸科学を総合的に深化させ、学際的な研究を推進することにより、人間と環境の共生及び社会の持続可能な発展に寄与する。</p> <p>3. 地域貢献・国際貢献 地方中核都市に位置する国立大学として地域との連携を強め、地域における研究中核の機能及び指導的人材の養成機能を果たす。世界に開かれた情報拠点として、世界に向けた学術文化の発信に努めることにより、地域の産業の振興と文化の向上に寄与する。また、知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、双方向的な国際交流の担い手の育成を目指す。</p>									
新設学部等の目的	<p>幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的・連続的かつ多面的・多角的な視点から理解し支援するための確かな専門性と、現代社会の複雑で多様な教育課題に柔軟に対応できるしなやかな実践力を兼ね備えた、人間性の豊かな学校教員の養成を目的に、養護教諭養成課程では、広い視野、深い教養と思いやりの心をもった豊かな人間性を基盤とした養護教諭を養成する。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	教育学部 養護教諭養成課程	年	人	年次人	人	学士（教育学）	教育学・保育学関係	令和8年4月 第1年次	熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	
	計	4	30	-	120					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>文学部 人文学科 (170) (令和7年7月届出) 総合人間学科 (廃止) (△55) ※令和8年4月学生募集停止 歴史学科 (廃止) (△35) ※令和8年4月学生募集停止 文学科 (廃止) (△50) ※令和8年4月学生募集停止 コミュニケーション情報学科 (廃止) (△30) ※令和8年4月学生募集停止 (3年次編入学定員) [定員減] (△10) ※令和8年4月学生募集停止</p> <p>教育学部 共同教員養成課程 (140) (令和7年7月届出) 学校教育教員養成課程 (廃止) (△220) ※令和8年4月学生募集停止</p> <p>工学部 土木建築学科 [定員増] (13) (令和8年4月) 機械数理工学科 [定員増] (11) (令和8年4月) 情報電気工学科 [定員増] (13) (令和8年4月) 材料・応用化学科 [定員増] (13) (令和8年4月) 共創学環 (80) (令和7年7月届出) ※学部等連携課程実施基本組織</p>									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	教育学部養護教諭養成課程	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
教育学部 養護教諭養成課程		教授	准教授	講師	助教	計	人	人		
		人	人	人	人	人	人	人		
		(5)	(3)	(1)	(0)	(9)	(0)	(257)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		4	3	0	0	7	0	257		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		(5)	(3)	(1)	(0)	(9)	(0)	(257)		

設

小計 (a~b)	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計 (a~d)	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)		
共同教員養成課程	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)	0 (0)	218 (218)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計 (a~b)	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計 (a~d)	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)		
文学部 人文科学科	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)	0 (0)	253 (253)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計 (a~b)	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計 (a~d)	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)		
学部等連係課程実施基本組織 共創学環							
連係協力学部 (I) 文学部 人文科学科							
連係協力学部 (II) 法学部 法学科	<6> 【5】 (12)	<11> 【0】 (12)	<1> 【0】 (1)	<1> 【0】 (1)	<19> 【5】 (26)	<0> 【0】 (0)	231 (231)
連係協力学部 (III) 理学部 理学科							
連係協力学部 (IV) 工学部 土木建築学科 機械数理工学科 情報電気工学科 材料・応用化学科 半導体デバイス工学課程							
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	<6> 【5】 (12)	<11> 【0】 (12)	<1> 【0】 (1)	<1> 【0】 (1)	<19> 【5】 (26)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)		
小計 (a~b)	<6> 【5】 (12)	<11> 【0】 (12)	<1> 【0】 (1)	<1> 【0】 (1)	<19> 【5】 (26)		

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

令和7年7月届出済み

(注) 【】の中の数は共創学環(学部等連係課程実施基本組織)と兼れる教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人

令和7年7月届出済み

(注) <>の中の数は共創学環(学部等連係課程実施基本組織)のみに従事する基幹教員。

【】の中の数は共創学環(学部等連係課程実施基本組織)と連係協力学部等を兼れる教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人

令和7年7月届出済み

分	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)		
	計（a～d）	<6> 【5】 (12)	<11> 【0】 (12)	<1> 【0】 (1)	<1> 【0】 (1)	<19> 【5】 (26)		
	計	<6> 【5】 (55)	<11> 【0】 (74)	<1> 【0】 (3)	<1> 【0】 (38)	<19> 【5】 (101)	-	-
		38	62	1	0	101	(-)	(-)
既	法学部 法学科	11 【2】 (15)	18 【0】 (18)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	31 【2】 (35)	1 (1)	220 (220)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 【2】 (15)	18 【0】 (18)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	31 【2】 (35)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	11 【2】 (15)	18 【0】 (18)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	31 【2】 (35)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	11 【2】 (15)	18 【0】 (18)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	31 【2】 (35)		
	理学部 理学科	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)	0 (0)	204 (204)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)			
医学部 医学科	57 【0】 (71)	36 【1】 (38)	44 【0】 (47)	151 【0】 (153)	288 【1】 (309)	0 (0)	236 (236)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	57 【0】 (71)	36 【1】 (38)	44 【0】 (47)	151 【0】 (153)	288 【1】 (309)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	57 【0】 (71)	36 【1】 (38)	44 【0】 (47)	151 【0】 (153)	288 【1】 (309)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	57 【0】 (71)	36 【1】 (38)	44 【0】 (47)	151 【0】 (153)	288 【1】 (309)			

(注)
□の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人

(注)
□の中の数は共創学環（学部等連携課程実施基本組織）と兼ねる教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 13人

(注)
□の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 105人

保健学科看護学専攻	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)	0 (0)	236 (236)	大学設置基準別表 第一イに定める基 幹教員数の四分の 三の数 9人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計(a～b)	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)			
保健学科放射線技術学専攻	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	236 (236)	大学設置基準別表 第一イに定める基 幹教員数の四分の 三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計(a～b)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			
保健学科検査技術科学専攻	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)	0 (0)	236 (236)	大学設置基準別表 第一イに定める基 幹教員数の四分の 三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計(a～b)	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)			
薬学部 薬学科	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)	0 (0)	236 (236)	大学設置基準別表 第一イに定める基 幹教員数の四分の 三の数 17人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計(a～b)	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)			
創薬・生命薬科学科	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)	0 (0)	236 (236)	大学設置基準別表 第一イに定める基 幹教員数の四分の 三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計(a～b)	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)			

設

c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	/	/	/	/				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
計（a～d）	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)								
工学部 土木建築学科	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)					0 (0)	234 (234)	(注) 【1】の中の数は共創学環（学部等連携課程実施基本組織）と兼ねる教員の数。	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)	/	/	/	/				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
小計（a～b）	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)								
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
計（a～d）	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)								
機械数理工学科	12 【2】 (14)	6 【0】 (9)	0 【0】 (0)	7 【0】 (7)	25 【2】 (30)					0 (0)	239 (239)	(注) 【1】の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 【2】 (14)	6 【0】 (9)	0 【0】 (0)	7 【0】 (7)	25 【2】 (30)					/	/	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
小計（a～b）	12 【2】 (14)	6 【0】 (9)	0 【0】 (0)	7 【0】 (7)	25 【2】 (30)								
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
計（a～d）	12 【2】 (14)	6 【0】 (9)	0 【0】 (0)	7 【0】 (7)	25 【2】 (30)								
情報電気工学科	13 【3】 (20)	13 【3】 (16)	0 【0】 (0)	5 【3】 (8)	31 【9】 (44)	0 (0)	224 (224)	(注) 【1】の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。					
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 【3】 (20)	13 【3】 (16)	0 【0】 (0)	5 【3】 (8)	31 【9】 (44)	/	/	/	/				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
小計（a～b）	13 【3】 (20)	13 【3】 (16)	0 【0】 (0)	5 【3】 (8)	31 【9】 (44)								
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
計（a～d）	13 【3】 (20)	13 【3】 (16)	0 【0】 (0)	5 【3】 (8)	31 【9】 (44)								
材料・応用化学科	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)					0 (0)	221 (221)	大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 8人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)					/	/	/	/

	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	/	/	
	小計（a～b）	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			
	半導体デバイス工学課程	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※	0 (0)	225 (225)	(注) ※は、工学部土木建築学科、機械電気工学科、情報電気工学科、材料・応用化学科と兼ねる基幹教員の数 []の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			
	学部等連係課程実施基本組織 情報融合学環	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)	0 (0)	225 (225)	(注) <>の中の数は学部等連係課程実施基本組織のみに従事する基幹教員数。 []の中の数は連携協力学部と兼ねる基幹教員の数。
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			
分	計	<4> 【4】 [8] 172 (222)	<3> 【0】 [4] 146 (162)	<1> 【0】 [0] 57 (61)	<4> 【0】 [3] 202 (211)	<12> 【4】 [15] 577 (656)	- (-)	- (-)	
	合 計	233 (277)	226 (236)	60 (64)	210 (212)	729 (789)	- (-)	- (-)	
	職 種	専 属		そ の 他		計			
	事 務 職 員	448 (448)	人	455 (455)	人	903 (903)	人		
	技 術 職 員	99 (99)		314 (314)		413 (413)			
	図 書 館 職 員	7 (7)		0 (0)		7 (7)			
	そ の 他 の 職 員	1205 (1205)		807 (807)		2012 (2012)			
	指 導 補 助 者	0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計	1759 (1759)		1576 (1576)		3335 (3335)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	放送大学熊本学習 センターとの共用 623㎡ 地上権設定者：財 団法人熊本テクノ ポリス財団 地上権設定期間： H29.9.1から3年間 19,945㎡ 貸与者：熊本市 借用期間：H29.4.1 からH30.3.31（以 降、毎年度更新） 494㎡ 貸与者：益城町 借用期間： H30.10.1から R2.9.30（以降、毎 年度更新） 331㎡				
	校 舎 敷 地	514,776㎡	623㎡	0㎡	515,399㎡					
	そ の 他	144,293㎡	0㎡	0㎡	144,293㎡					
	合 計	659,069㎡	623㎡	0㎡	659,692㎡					
校 舎	専 用	464,523㎡ (464,523㎡)	0㎡ (0㎡)	共用する他の 学校等の専用 1,112㎡ (1,112㎡)	計 465,635㎡ (465,635㎡)	放送大学熊本学習 センターの専用 1,112㎡				
	教室・教員研究室	教 室	1446 室	教 員 研 究 室	808 室		大学全体			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学部等単位 での特定不 能なため、 大学全体の 数		
	共創学環	1,326,394 [545,241] (1,326,394 [545,241])	69,426 [68,115] (69,426 [68,115])	38,551 [22,962] (38,551 [22,962])	17,031 [15,706] (17,031 [15,706])	67,684 (67,684)	35 (35)			
	計	1,326,394 [545,241] (1,326,394 [545,241])	69,426 [68,115] (69,426 [68,115])	38,551 [22,962] (38,551 [22,962])	17,031 [15,706] (17,031 [15,706])	67,684 (67,684)	35 (35)			
スポーツ施設等		スポーツ施設 22,045 ㎡		講 堂 - ㎡	厚生補導施設 18,255 ㎡		大学全体			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営 費交付金） による	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		-千円
	共同研究費等	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		-千円
	図書購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		-千円
	設備購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		-千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	-千円		-千円
学生納付金以外の維持方法の概要	該当なし									
大 学 等 の 名 称		熊本大学								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	取容 定員	学位又 は称号	取 容 定 員 充 足 率	開 設 年 度	所 在 地		
文学部	年	人	年次 人	人		倍		熊本市中央区黒髪 2丁目40-1		
総合人間学科	4	55	10	220	学士（文学）	1.08 《1.02》	平成17年度			
歴史学科	4	35		140	学士（文学）	1.09 《1.05》	平成17年度			
文学科	4	50		200	学士（文学）	1.04 《0.97》	平成17年度			
コミュニケーション情報学科	4	30		120	学士（文学）	1.30 《1.19》	平成17年度			
教育学部								熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	令和4年度入学生定員 減（△10人）	
学校教育教員養成課程	4	220	-	880	学士（教育学）	1.05 1.05	令和4年度		令和4年度より 学生募集 停止	
小学校教員養成課程	4	-	-	-	学士（教育学）	-	平成24年度			
中学校教員養成課程	4	-	-	-	学士（教育学）	-	平成24年度			
特別支援教育教員養成課程 養護教諭養成課程	4	-	-	-	学士（教育学）	-	平成19年度 昭和52年度			
法学部								熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	令和6年度から情報 融合学環（学部等 連係課程実施基本 組織）に入学定員 10名を活用	
法学科	4	210	10	860	学士（法学）	1.04 《1.00》 1.04 《1.00》	平成16年度			
理学部								熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	令和6年度から情報 融合学環（学部等 連係課程実施基本 組織）に入学定員 10名を活用	
理学科	4	200	-	800	学士（理学）	1.09 《1.03》 1.09 《1.03》	平成16年度			

情報電気電子工学専攻	3	—	—	—	博士（工学）， 博士（学術）	—	平成18年度	熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	平成30年度より学 生募集停止	
大学院自然科学教育部 （博士前期課程） 理学専攻	2	110	—	220	修士（理学）， 修士（学術）	1.07 0.89	平成30年度			
土木建築学専攻	2	75	—	150	修士（工学）， 修士（学術）	1.39	平成30年度			
機械システム工学専攻	2	55	—	55	修士（工学）， 修士（学術）	1.18	令和7年度			
機械数理工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）， 修士（学術）	—	平成30年度			平成30年度より学 生募集停止
電気電子工学専攻	2	63	—	63	修士（工学）， 修士（学術）	0.95	令和7年度			
情報電気工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）， 修士（学術）	—	平成30年度			平成30年度より学 生募集停止
材料・応用化学専攻	2	90	—	180	修士（工学）， 修士（学術）	1.12	平成30年度			
半導体・情報数理工学専攻	2	120	—	120	修士（工学）， 修士（情報学）	0.93	令和7年度			
（博士後期課程） 理学専攻	3	12	—	36	博士（理学）， 博士（学術）	0.94 1.00	平成30年度			
工学専攻	3	24	—	116	博士（工学）， 博士（学術）	1.03	平成30年度			
半導体・情報数理工学専攻	3	22	—	22	博士（工学）， 博士（情報学）	0.36	令和7年度			
大学院医学教育部 （修士課程） 医科学専攻	2	20	—	40	修士（医科学）， 修士（健康生命科学）	0.90	平成15年度			熊本市中央区本荘 1丁目1-1
（博士課程） 医学専攻	4	88	—	352	博士（医学）， 博士（生命科学）， 博士（健康生命科学）	1.12	平成20年度			
大学院保健学教育部 （博士前期課程） 保健学専攻	2	24	—	48	修士（保健学）， 修士（看護学）	0.85	平成22年度			熊本市中央区九品寺4 丁目24-1
（博士後期課程） 保健学専攻	3	6	—	18	博士（保健学）， 博士（看護学）	1.28	平成22年度			
大学院薬学教育部 （博士前期課程） 創薬・生命薬科学専攻	2	35	—	70	修士（薬科学）， 修士（健康生命科学）	0.97	平成22年度			熊本市中央区大日本町 5-1
（博士後期課程） 創薬・生命薬科学専攻	3	10	—	30	博士（薬科学）， 博士（生命科学）， 博士（健康生命科学）	1.63	平成24年度			
（博士課程） 医療薬学専攻	4	8	—	32	博士（薬学）	0.91	平成24年度			

名称：教育学部附属幼稚園
 目的：附属学校は、教育基本法及び学校教育法に規定する教育又は保育を行うとともに、教育学部の教育計画に従って、次に掲げる事項を行うことを目的とする。
 (1) 教育理論及び教育の実際に関する研究並びにその実証を行うこと。
 (2) 教育学部学生の実習の実施及びその指導に当たること。
 (3) 地方の教育に協力すること。

所在地：熊本県熊本市中央区城東町5番9号
 設置年月：昭和24年5月
 規模等：土地 4,632㎡ 建物 1,199㎡

名称：教育学部附属小学校
 目的：附属幼稚園に同じ
 所在地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号
 設置年月：昭和24年5月
 規模等：土地 51,547㎡ 建物 7,282㎡

名称：教育学部附属中学校
 目的：附属幼稚園に同じ
 所在地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号

設置年月：昭和24年5月
規模等：土地 51,547㎡ 建物 5,885㎡

名称：教育学部附属特別支援学校
目的：附属幼稚園に同じ
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪5丁目17番1号
設置年月：昭和40年4月
規模等：土地 26,375㎡ 建物 4,164㎡

名称：病院
目的：診療を通して医学の教育及び研究に資することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区本荘1丁目1番1号
設置年月：昭和24年5月
規模等：土地 82,463㎡ 建物 111,388㎡

名称：大学院生命科学研究所附属グローバル天然物科学研究センター
目的：薬用植物資源を活用した教育及び研究を行い、薬学の視点に立った環境問題への取組を通して、薬学の発展を図ることを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区大江本町5番1号
設置年月：平成22年4月
規模等：土地 51,264㎡ 建物 340㎡

名称：発生医学研究所
目的：発生学の視点から様々な生命現象を解明し、医学に貢献することを目指す発生医学の研究活動を、分子、細胞、組織、器官、個体へと連続する観点から、統合的に推進することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号
設置年月：平成21年4月
規模等：土地 25,088㎡ 建物 6,293㎡

名称：産業ナノマテリアル研究所
目的：未来材料“二次元マテリアル”を核として理論から産業実装化を目指した世界に類のない研究所として、新たな研究領域への展開、および産業振興・地域活性化を推進することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：令和2年4月
規模等：土地 115,176㎡ 建物 4,356㎡

名称：ヒトレトロウイルス学共同研究センター
目的：世界的課題である難治性ウイルス（HIV-1、HTLV-1、HBV及びその他の関連するウイルスをいう。）感染症について、本学と鹿児島大学の強みを統合することで、両大学が有する資源を有効に活用し、感染病態の基礎研究を基に、感染予防と治癒を目指した世界的・全学的な研究及び教育の総合的推進を図ることを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号
設置年月：平成31年4月
規模等：土地 25,088㎡ 建物 2,165㎡

名称：研究開発戦略本部
目的：研究から研究成果の社会実装までの一貫した研究サポート・マネジメントを行うことにより、熊本大学の研究力の向上を図るとともに、地域課題の解決に貢献することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：令和7年4月
規模等：土地 115,176㎡ 建物 5,362㎡

名称：グローバル推進機構
目的：グローバル戦略の企画立案を行い、教育研究における国際交流を推進するとともに、グローバル人材の育成及び地域社会のグローバル化に貢献することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：平成27年3月
規模等：土地 169,619㎡ 建物 2,078㎡

名称：大学教育統括管理運営機構
目的：教養教育を含む学士課程教育及び大学院課程教育の理念及び目的が達成されるよう、大学教育を統括するとともに教養教育の円滑な運営・実施及び戦略的な入学者選抜の企画・立案を行うことを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：平成28年6月
規模等：土地 169,619㎡ 建物 427㎡

附属施設の概要

<p>名称：先進軽金属材料国際研究機構</p> <p>目的：富山大学と連携し、リソースの有効活用と相互補完によるマグネシウム・アルミニウム研究の強化、チタン研究の育成、マグネシウム・アルミニウム・チタンの融合研究の促進および軽金属モノづくり高度人材育成を図り、日本の科学技術と産業の発展に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：令和3年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,431㎡</p>
<p>名称：半導体・デジタル研究教育機構</p> <p>目的：熊本大学における半導体分野及びデータサイエンスを含むデジタルトランスフォーメーション分野の研究教育機能を集約することにより、各分野の研究の高度化及び高度な知見を有する人材の育成を図り、もって地域産業の強靱化に資することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：令和5年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 10,639㎡</p>
<p>名称：国際先端医学研究機構</p> <p>目的：国際的な先端医学研究、人材発掘及び人材育成を行い、本学の生命科学分野の基礎研究から臨床応用並びに国際レベルの研究力及び教育力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号</p> <p>設置年月：平成27年4月</p> <p>規模等：土地 25,088㎡ 建物 982㎡</p>
<p>名称：キャンパスミュージアム推進機構</p> <p>目的：熊本大学の各キャンパスにおいて保有する歴史的・文化的な展示資材・施設の全学的な連携により、重要文化財等の効果的な展示及び情報発信の強化を図り、キャンパス全体のミュージアム化を推進することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：令和6年4月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 2,225㎡</p>
<p>名称：永青文庫研究センター</p> <p>目的：永青文庫資料をはじめとする熊本藩関係資料の総合的な研究を通じて当該資料に立脚した拠点的研究を組織するとともに、文化行政機関等との連携によって地域文化振興に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：平成29年4月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 117㎡</p>
<p>名称：くまもと水循環・減災研究教育センター</p> <p>目的：先進的な地下水循環、沿岸環境及び減災型社会システムに関する研究を推進することで、学生及び社会人の人材育成を行うとともに、その成果を国内外に発信・展開することを通じて地域と国際社会に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：平成29年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,410㎡</p>
<p>名称：先進マグネシウム国際研究センター</p> <p>目的：我が国のマグネシウム研究を牽引し、マグネシウム合金に関する世界的研究拠点として、地域のみならず、我が国さらには世界の科学技術の発展及び産業の活性化に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：平成23年12月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,431㎡</p>
<p>名称：生命資源研究・支援センター</p> <p>目的：遺伝子改変動物その他の研究資源及びこれらの研究資源情報の利用等をおして、諸科学分野の教育研究の総合的推進に資することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号</p> <p>設置年月：平成15年4月</p> <p>規模等：土地 25,088㎡ 建物 15,322㎡</p>
<p>名称：環境安全センター</p> <p>目的：環境管理及び安全管理に係る教育研究の推進及び啓発を図ることにより、良好な教育研究環境及び教育研究活動等における職員、学生等の安全を確保することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：平成18年4月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 477㎡</p>

名称：埋蔵文化財調査センター
目的：本学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、研究、保存及び活用することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：平成23年10月
規模等：土地 115,176㎡ 建物 514㎡

名称：保健センター
目的：学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：平成16年4月
規模等：土地 169,619㎡ 建物 579㎡

熊本大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和7年度(2025年度)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度(2026年度)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
熊本大学 文学部		3年次		熊本大学 文学部		3年次		
				人文科学科	170	-	680	学科の設置(事前相談) 共創学環の内数【10】
総合人間学科	55	-	220		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
歴史学科	35	-	140		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
文学科	50	-	200		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
コミュニケーション情報学科 (学部共通)	30	-	120		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
	-	10	20		-	0	0	令和8年4月学生募集停止
教育学部				教育学部				
				共同教員養成課程	140	-	560	学科の設置(事前相談)
学校教育教員養成課程	220	-	880	養護教諭養成課程	30	-	120	学科の設置(事前相談)
					0	-	0	令和8年4月学生募集停止
法学部		3年次		法学部		3年次		
法学科	210	10	860	法学科	210	10	860	情報融合学環の内数【10】 共創学環の内数【10】
理学部				理学部				
理学科	200	-	800	理学科	200	-	800	情報融合学環の内数【10】 共創学環の内数【10】
医学部				医学部				
医学科(6年制)	109	-	659	医学科(6年制)	105	-	630	医学部臨時定員に伴う収 容定員変更(△4)
保健学科	144	16	608	保健学科	144	16	608	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	55	-	330	薬学科(6年制)	55	-	330	
創薬・生命薬科学科	35	-	140	創薬・生命薬科学科	35	-	140	
工学部		3年次		工学部		3年次		
土木建築学科	124	10	516	土木建築学科	137	10	568	定員変更(13) 情報融合学環の内数【6】 共創学環の内数【13】
機械数理工学科	108	10	452	機械数理工学科	119	10	496	定員変更(11) 情報融合学環の内数【7】 共創学環の内数【11】
情報電気工学科	132	20	568	情報電気工学科	145	20	620	定員変更(13) 情報融合学環の内数【20】 共創学環の内数【13】
材料・応用化学科	129	5	526	材料・応用化学科	142	5	578	定員変更(13) 情報融合学環の内数【7】 共創学環の内数【13】
半導体デバイス工学課程	20	20	120	半導体デバイス工学課程	20	20	120	
情報融合学環	【60】		【240】	情報融合学環	【60】		【240】	
				共創学環	【80】		【320】	学部等連係課程実施基本 組織の設置 (事前相談)
計	1,656	101	7,159	計	1,652	91	7,110	
熊本大学大学院 教育学研究科				熊本大学大学院 教育学研究科				
教職実践開発専攻(P)	30	-	60	教職実践開発専攻(P)	30	-	60	
社会文化科学教育部				社会文化科学教育部				
法政・紛争解決学専攻(M)	14	-	25	法政・紛争解決学専攻(M)	14	-	25	
現代社会人間学専攻(M)	18	-	36	現代社会人間学専攻(M)	18	-	36	
文化学専攻(M)	18	-	36	文化学専攻(M)	18	-	36	
教授システム学専攻(M)	15	-	30	教授システム学専攻(M)	15	-	30	
人間・社会科学専攻(D)	6	-	18	人間・社会科学専攻(D)	6	-	18	
文化学専攻(D)	6	-	18	文化学専攻(D)	6	-	18	
教授システム学専攻(D)	3	-	9	教授システム学専攻(D)	3	-	9	
自然科学教育部				自然科学教育部				
理学専攻(M)	110	-	220	理学専攻(M)	110	-	220	
土木建築学専攻(M)	75	-	150	土木建築学専攻(M)	75	-	150	
機械システム工学専攻(M)	55	-	110	機械システム工学専攻(M)	55	-	110	
電気電子工学専攻(M)	63	-	126	電気電子工学専攻(M)	63	-	126	
材料・応用化学専攻(M)	90	-	180	材料・応用化学専攻(M)	90	-	180	
半導体・情報数理専攻(M)	120	-	240	半導体・情報数理専攻(M)	120	-	240	
理学専攻(D)	12	-	36	理学専攻(D)	12	-	36	
工学専攻(D)	24	-	72	工学専攻(D)	24	-	72	
半導体・情報数理専攻(D)	22	-	66	半導体・情報数理専攻(D)	22	-	66	
医学教育部				医学教育部				
医科学専攻(M)	20	-	40	医科学専攻(M)	20	-	40	
医学専攻(4年制D)	88	-	352	医学専攻(4年制D)	88	-	352	
保健学教育部				保健学教育部				
保健学専攻(M)	24	-	48	保健学専攻(M)	24	-	48	
保健学専攻(D)	6	-	18	保健学専攻(D)	6	-	18	
薬学教育部				薬学教育部				
創薬・生命薬科学専攻(M)	35	-	70	創薬・生命薬科学専攻(M)	35	-	70	
創薬・生命薬科学専攻(D)	10	-	30	創薬・生命薬科学専攻(D)	10	-	30	
医療薬学専攻(4年制D)	8	-	32	医療薬学専攻(4年制D)	8	-	32	
計	872	-	2,022	計	872	-	2,022	

教育課程等の概要															
(教育学部養護教諭養成課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	必修外国語科目 (既修)	英語A-1	1前・後		1				○						14
		英語A-2	1前・後		1				○						17
		英語B-1	1前・後		1				○						17
		英語B-2	1前・後		1				○						16
		英語e	1前・後		1				○						9
		英語C-1	2前		1				○						18
		英語C-2	2後		1				○						10
	外国語科目 自由選択外国語科目	ドイツ語 I-1	1前			1			○						1
		ドイツ語 I-2	1後			1			○						1
		ドイツ語 II-1	2前			1			○						1
		ドイツ語 II-2	2後			1			○						1
		フランス語 I-1	1前			1			○						1
		フランス語 I-2	1後			1			○						1
		フランス語 III-1	2前			1			○						1
		フランス語 III-2	2後			1			○						1
		中国語 I-1	1前			1			○						1
		中国語 I-2	1後			1			○						1
		コリア語 I-1	1前			1			○						1
		コリア語 I-2	1後			1			○						1
		コリア語 II-1	2前			1			○						1
		コリア語 II-2	2後			1			○						1
		コリア語 III-1	2前			1			○						1
		コリア語 III-2	2後			1			○						1
		ロシア語 I-1	1前			1			○						1
		ロシア語 I-2	1後			1			○						1
		ラテン語 I-1	1前			1			○						1
		ラテン語 I-2	1後			1			○						1
		スペイン語 I-1	1前			1			○						1
		スペイン語 I-2	1後			1			○						1
		スペイン語 II-1	2前			1			○						1
		スペイン語 II-2	2後			1			○						1
		ヘブライ語 I-1	1前			1			○						1
		ヘブライ語 I-2	1後			1			○						1
		イタリア語 I-1	1前			1			○						1
		イタリア語 I-2	1後			1			○						1
		日本語 I-2	1・2前・後			1			○						2
		日本語 II-2	1・2前・後			1			○						1
		日本語 III-1	1・2前			1			○						1
		日本語 III-2	1・2前・後			1			○						2
		日本語 IV-1	1前			1			○						1
		日本語 IV-2	1・2前・後			1			○						2
小計(41科目)				7	34	0				0	0	0	0	0	53
情報科	ICTリテラシー	1前			2				○						7
	DSリテラシー	1後			2				○						7
	小計(2科目)				4	0	0				0	0	0	0	7
	文系のための数学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○							2
	数学の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○							2
	物理学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○							7
	教養の化学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○							3
	生物の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○							9
	地球環境の現状と人類	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○							1
	持続可能な都市と地域づくり	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○							1

リベラル アーツ 科目	豊かさを持続させるものづくり	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															2	
	日々の生活に垣間見る情報と通信	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															2	
	倫理学入門	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															2	
	心と世界	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															1	
	思考と論理	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															1	
	現代心理行動学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															3	
	こころの科学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															1	
	芸術文化論	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															1	
	文学の諸相	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															3	
	モノが語る歴史	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															4	
	地域の世界史	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															4	
	日本社会の歴史	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															3	
	法学の基礎	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															5	
	現代政治の諸相	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															3	
	最前線の社会文化研究	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															8	
	現代社会の解説	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															3	
	自然と人間の地理学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															3	
	小計 (24科目)	—	—	0	24~48	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	74
	教養 教育 科目	数学と文化	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															2
		物理学の世界	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															1
		暮らしと化学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															3
		化学と環境	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															3
		最先端の生命科学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															5
		地球環境科学の最前線	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															6
地域づくりと科学技術		1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															4	
ものづくりの科学と技術		1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○															6	

現代 教養 科目	暮らしと情報・通信技術	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														3
	健康の科学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
	病気の医科学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
	臨床医学の最前線	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
	現代社会と医学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														1
	心身の健康と看護	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														3
	医療における理工学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														1
	現代の医学検査	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														1
	現代医療と生命科学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
	薬科学入門	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
	現代社会と薬学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
	現代教育について考える	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														7
	心理学の探求	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														1
	芸術への招待	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
	現代と言語	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
	現代と文学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
	現代世界の形成と課題	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
	最先端の法学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														1
	現代社会と経済	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														5
	現代の政治	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														2
学際科目	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														3	
小計 (29科目)		—	—	0	29~58	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	78
M u l t i d i s c i p l i n	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														3
	Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														1
	Socio-Cultural Studies	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														5
	World History	1・2前・後・ ①・②・③・ ④		1又は2	○														1

専攻科	Area Studies	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○										4	
		Comprehensive English Communication	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○										1
		Global Career Development	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○										1
		小計 (7科目)	—	—	0	7~14	0	—			0	0	0	0	0	0	6
	キャリア科目	キャリア科目	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○										7
		小計 (1科目)	—	—	0	1又は2	0	—			0	0	0	0	0	0	7
	開放科目	開放科目	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○										6
		小計 (1科目)	—	—	0	1又は2	0	—			0	0	0	0	0	0	6
	スポーツ・健康科学	体育・スポーツ科学a	1・2①・②・③・④		1			○									5
		小計 (1科目)	—	—	1	0	0	—			0	0	0	0	0	0	5
	スポーツ・健康科学	体育・スポーツ科学b	1・2①・②・③・④		1			○									6
		小計 (1科目)	—	—	1	0	0	—			0	0	0	0	0	0	6
	憲法・日本国	暮らしの中の憲法	1・2前・後		2			○									2
		小計 (1科目)	—	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	0	2
	専攻科	教育の基礎的理解に関する科目等	教育原理A (理念及び思想)	1前	○	1			○								1
教育原理B (歴史・制度)			1前	○	1			○								1	
教職入門			1前	○	2			○								1	
現代の教育と社会A			1後	○	1			○								1	
現代の教育と社会B			1後	○	1			○								1	
教育心理学A (学習)			1前	○	1			○								1	
教育心理学B (発達)			1前	○	1			○								1	
特別支援教育の基礎			3前	○	1			○								1	
特別支援教育の展開			3前	○	1			○								1	
教育課程論			2後	○	1			○								1	
道徳教育の理論			2後	○	1			○								1	
道徳教育の実践			2後	○	1			○								1	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			2前	○	2			○								1	
教育方法学			2前	○	1			○								1	
教育とICT活用			2前	○	1			○			2					1	
生徒指導と学校カウンセリング			2後	○	2			○								1	
教育相談の理論及び方法			3前	○	1			○								2	
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			3前	○	1			○								2	
事前・事後指導			3通・4通			1			○							1	
中等教育実習 I			3通・4通			2			○							1	
中等教育実習 II			3通・4通			2			○							1	
養護実習			3通・4通	○	5				○							1	
教職実践演習 (養)			4通	○	2				○							1	
教職実践演習 (幼・小・中・高)			4通			2			○							1	
小計 (24科目)	—	—	28	7	0	—			2	0	0	0	0	0	15		
専攻科	基礎医科学	解剖学	1前	○	2			○								1	
		生理学	1後	○	2			○								1	
		生理学実習	2前			2				○						3	
		微生物学・免疫学	2前	○	2			○								1	
		薬理学	2後	○	2			○								1	
		病理学	2前			2			○							1	
		生化学	1後			2			○							1	
		栄養学(食品学を含む。)	2通	○	2			○			1					1	
		臨床医科学・看護学	看護学概説 I	2後	○	2			○			1					1
			看護学概説 II	3①	○	1			○								1
	看護学概説 III		3②			1		○								1	
	看護学実習 I		3①	○	1				○		1					1	
	看護学実習 II		3②	○	1				○		1					1	
	内科学		2後			2		○								2	
	皮膚科学		2後			1		○								1	
	小児科学		3①			2		○								1	
	外科学		2前	○	1			○								7	
	整形外科		2後			1		○								1	
	眼科学		2後			1		○								1	
	歯科学		2前			1		○								1	
	耳鼻咽喉科学		2後			1		○								1	
	産婦人科学		2前			1		○			1					1	
	精神保健学	3前	○	2			○								1		
	臨床実習 I	3後	○	3				○		1					2		
臨床実習 II	4後			1			○		1					2			
学校保健	学校保健 I (小児保健を含む。)	2前	○	2			○								1		
	学校保健 II	2後			1		○								1		

指 導 法	教 育 保 健	学校保健Ⅲ	4前			1			○		1										
		養護学概論Ⅰ	1前	○	2				○			1									
養護学概論Ⅱ		2前	○	2				○			1										
衛生学		1前	○	2				○				1									
公衆衛生学Ⅰ		1後	○	2				○				1									
公衆衛生学Ⅱ		2後					1						1								
公衆衛生学実習		3前					2						1							1	
予防医学		3②	○	1					○												1
学校救急処置Ⅰ		3①	○	1					○												1
学校救急処置Ⅱ		3②	○	1					○												1
学校安全		3④	○	1					○												1
健康相談活動の理論	3前	○	2					○				1								2	
健康相談活動の方法	3前					2			○			1									
教 科 の 指 導 法	中等保健科指導法Ⅰ	2後	○	2					○			1									
	中等保健科指導法Ⅱ	3前	○	2					○			1									
	中等保健科指導法Ⅲ	3後				2			○			1	1								
	中等保健科指導法Ⅳ	3後				2			○			1	1								
	性に関する指導	3後・4後				1			○			1	1								
小計 (45科目)		—	—	41	30	0		—			1	2	0	0	0	0	0	0	18		
大 学 が 独 自 に 設 定 す る 科 目	教育実践研究指導法演習	2・3・4後				2				○										1	
	教育臨床体験演習	3前				2				○										2	
	教職実践基礎セミナー	1通	○			2				○										1	
	熊本・学びの最前線	1後	○			2				○	2									1	
	日本語教育指導探究	3前	○			2				○										1	
	地域教育課題探究	2後	○			2				○										1	
	グローバル教育課題探究	3後	○			2				○										1	
	人権教育論	3④				2			○											1	
	教職保健	3後				2				○		1	2								
	教育評価	3後				2				○										1	
	学校経営学	3後				2				○										1	
	児童・生徒の性的問題に係る教育支援	3後				2				○										1	
小計 (12科目)		—	—	0	24	0		—			3	2								11	
卒業研究	4通	○	6						○		2	3									
合計 (190科目)		—	—	90	157~219	0		—			4	3	0	0	0	0	0	0	257		
学位又は称号	学士 (教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係															
卒業・修了要件及び履修方法						授業期間等															
4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目27単位以上、専門教育科目97単位以上、合計124単位以上の単位を修得した者を卒業と認定する。 ①教養教育科目 必修科目として必修外国語科目7単位、情報科目4単位、教養科目の体育・スポーツ科学科目1単位、教職科目3単位を修得し、併せて選択科目から12単位以上、合計27単位以上を修得する。 ②専門教育科目 1) 教育の基礎的理解に関する科目等 35単位 (必修科目28単位を含む) 2) 養護に関する科目 37単位 (必修) 3) 教科の指導法 4単位 4) 卒業論文 6単位 上記に加え、専門教育科目から15単位以上を修得し、合計97単位を修得する。						1 学年の学期区分		2 期													
						1 学期の授業期間		15週													
						1 時限の授業の標準時間		90分													

教育課程等の概要																
〔【既設】教育学部学校教育教員養成課程〕																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
	文系のための数学入門(A)	1・2後		2			○								1	
	文系のための数学入門(B)	1・2後		2			○								1	
	文系のための数学入門(C)	2後		2			○								1	
	文系のための数学入門(a)	1・2②		1			○								1	
	数学の世界(A)	1・2前		2			○								1	
	数学の世界(B)	1・2前		2			○								1	
	数学の世界(a)	1・2②		1			○								1	
	数学の世界(b)	1・2③		1			○								1	
	数学の世界(c)	1・2①		1			○								1	
	物理学入門(A)	1・2後		2			○								1	
	物理学入門(B)	1・2②		2			○								1	
	物理学入門(a)	1・2③		1			○								1	
	物理学入門(b)	1・2④		1			○								1	
	物理学入門(c)	1・2③		1			○								1	
	物理学入門(d)	1・2④		1			○								1	
	物理学入門(e)	1・2④		1			○				1					
	物理学入門(f)	1・2①・③		1			○								1	
	物理学入門(g)	1・2③		1			○								1	
	物理学入門(h)	1・2③		1			○								1	
	物理学入門(i)	1・2④		1			○								1	
	物理学入門(j)	1・2④		1			○								1	
	教養の化学(A)	1・2前		2			○								1	
	教養の化学(B)	1・2①		2			○								1	
	教養の化学(a)	1・2①		1			○								1	
	教養の化学(b)	1・2②		1			○								1	
	教養の化学(c)	1・2③		1			○				1					
	教養の化学(d)	1・2④		1			○				1					
	教養の化学(e)	1・2①		1			○								1	
	教養の化学(f)	1・2②		1			○								1	
	教養の化学(g)	1・2②		1			○								1	
	教養の化学(h)	1・2③		1			○								1	
	生物の世界(A)	1・2後		2			○								1	
	生物の世界(B)	1・2③		2			○								1	
	生物の世界(C)	1・2後		2			○								1	
	生物の世界(D)	1・2③		2			○								1	
	生物の世界(a)	1・2④		1			○								1	
	生物の世界(b)	1・2③		1			○								1	
	生物の世界(c)	1・2①		1			○								1	
	生物の世界(d)	1・2③		1			○								1	
	生物の世界(e)	1・2①		1			○								1	
	生物の世界(f)	1・2③		1			○								1	
	生物の世界(g)	1・2②		1			○								1	
	生物の世界(h)	1・2③		1			○								1	
	生物の世界(i)	1・2①		1			○								1	
	生物の世界(j)	1・2④		1			○								1	
	生物の世界(k)	1・2②		1			○								1	
	地球環境の現状と人類(A)	1・2前		2			○								1	
	地球環境の現状と人類(a)	1・2①		1			○								1	
	地球環境の現状と人類(b)	1・2②		1			○								1	
	持続可能な都市と地域づくり(A)	1・2前		2			○								1	
	持続可能な都市と地域づくり(B)	1・2後		2			○								1	
	豊かさを持続させるものづくり(A)	1・2①		2			○								1	
	豊かさを持続させるものづくり(B)	1・2後		2			○								1	
	豊かさを持続させるものづくり(C)	1・2③		2			○								1	
	日々の生活に垣間見る情報と通信(A)	1・2②		2			○								1	
	日々の生活に垣間見る情報と通信(B)	1・2①		2			○								1	
	倫理学入門(A)	1・2後		2			○								1	
	倫理学入門(B)	1・2後		2			○								1	
	倫理学入門(C)	1・2後		2			○								1	
	倫理学入門(D)	1・2後		2			○								1	
	倫理学入門(E)	1・2後		2			○								1	
	倫理学入門(F)	1・2後		2			○								1	
	倫理学入門(a)	1・2②		1			○								1	
	倫理学入門(b)	1・2④		1			○								1	
	倫理学入門(c)	1・2①		1			○								1	
	倫理学入門(d)	1・2②		1			○								1	
	倫理学入門(e)	1・2①		1			○								1	
	倫理学入門(f)	1・2②		1			○								1	
	倫理学入門(g)	1・2①		1			○								1	
	倫理学入門(h)	1・2②		1			○								1	
	倫理学入門(i)	1・2①		1			○				1					

Eに関する科目（小学校専攻）	小計（10科目）		-	-	10	0	0	-	-	14	16	0	0	0	1				
	教科の指導法	初等国語科教育	2前・後	○	2			○			1	1					オムニバス		
		初等社会科教育	1前・後	○	2			○			1	1							
		算数科教育	2前・後	○	2			○			2	2							
		初等理科教育	1前・後	○	2			○			1	1					共同・オムニバス		
		初等英語科教育	2前・後	○	2			○			1	1					共同		
		初等音楽科教育	2前・後	○	2			○			1						オムニバス		
		図画工作科教育	2前・後	○	2			○				1							
		体育科教育	2前・後	○	2			○			1	1					オムニバス		
		初等家庭科教育	2前・後	○	2			○				1							
	生活科教育	2後	○	2			○			4	2						オムニバス		
小計（10科目）		-	-	20	0	0	-	-	7	10	0	0	0	0					
小計（20科目）		-	-	30	0	0	-	-	19	23	0	0	0	0	1				
教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	国語学概説Ⅰ	2①	○	1			○										
			国語学概説Ⅱ	2②			1		○										
			国語学概説Ⅲ	3①			1			○									
			国語学概説Ⅳ	3②			1			○									
			国語学概説Ⅴ	3④	○	1				○									
			国語学演習Ⅰ	2③			1			○									
			国語学演習Ⅱ	2④			1			○									
			国語学演習Ⅲ	3④			1			○									
			国語学演習Ⅳ	4①			1			○									
			小計（9科目）		-	-	2	7	0	-	-	0	1	0	0	0	0	0	
	教科に関する専門的事項	国文学	国文学概説Ⅰ	3①	○	1				○								1	
			国文学概説Ⅱ	2①	○	1				○			1						
			国文学概説Ⅲ	3②			1			○								1	
			国文学講義Ⅰ	3④			1			○								1	
			国文学講義Ⅱ	4①			1			○								1	
			国文学講義Ⅲ	3①			1			○			1						
			国文学講義Ⅳ	3②			1			○			1						
			国文学演習Ⅰ	3①			1			○								1	
			国文学演習Ⅱ	3②			1			○								1	
			国文学演習Ⅲ	4③			1			○		1							
			国文学演習Ⅳ	2②			1			○			1						
			国文学演習Ⅴ	3後			2			○			1						
			国文学演習Ⅵ	4後			2			○			1						
小計（13科目）		-	-	2	13	0	-	-	1	1	0	0	0	0	2				
教科に関する専門的事項	漢文学	漢文学概説Ⅰ	3①	○	1				○										
		漢文学概説Ⅱ	3②	○	1				○										
		漢文学講義Ⅰ	3④			1			○										
		漢文学講義Ⅱ	4①			1			○										
		漢文学演習Ⅰ	2①			1			○										
		漢文学演習Ⅱ	2②			1			○										
		小計（6科目）		-	-	2	4	0	-	-	1	0	0	0	0	0	0		
教科の指導法	書道	書写	2前	○	2				○								1		
		教科の指導法	中等国語科教育Ⅰ	2前	○	2				○									
			中等国語科教育Ⅱ	2後	○	2				○									
			中等国語科教育Ⅲ	3前	○	2				○									
			中等国語科教育Ⅳ	3前	○	2				○									
			国語教育特殊講義Ⅰ	2後			2			○									
			国語教育特殊講義Ⅱ	3後			2			○									
			国語教育演習Ⅰ	3①			1			○									
			国語教育演習Ⅱ	3②			1			○									
			国語教育演習Ⅲ	3④			1			○									
国語教育演習Ⅳ	4③				1			○											
小計（10科目）		-	-	8	8	0	-	-	0	2	0	0	0	0	0				
小計（39科目）		-	-	16	32	0	-	-	1	4	0	0	0	0	3				
Eに関する科目（中学校専攻）	歴史学	日本史概説Ⅰ	2③	○	1				○										
		日本史概説Ⅱ	2④	○	1				○										
		日本史特講Ⅰ	3①			1				○									
		日本史特講Ⅱ	3②			1				○									
		日本史演習Ⅰ	3前			2				○								隔年	
		日本史演習Ⅱ	3後			2				○								隔年	
		日本史演習Ⅲ	3前			2				○								隔年	
		日本史演習Ⅳ	3後			2				○								隔年	
		日本史調査実習	2通・3通			2				○								隔年	
		世界史概説Ⅰ	2①	○	1					○									
		世界史概説Ⅱ	2②	○	1					○									
		世界史特講Ⅰ	3①			1				○									
		世界史特講Ⅱ	3②			1				○									
		世界史演習Ⅰ	3前			2				○								隔年	
		世界史演習Ⅱ	3後			2				○								隔年	
		世界史演習Ⅲ	3前			2				○								隔年	
		世界史演習Ⅳ	3後			2				○								隔年	
	小計（17科目）		-	-	4	22	0	-	-	2	0	0	0	0	0	0			
	地理	人文地理学概説Ⅰ	3①	○	1					○									
		人文地理学概説Ⅱ	3②	○	1					○									
		自然地理学概説	3前	○	2					○								1	
		人文地理学特講Ⅰ	2①			1				○									
		人文地理学特講Ⅱ	2②			1				○									
自然地理学特講		4後			2				○								1		
人文地理学演習Ⅰ	3前			2				○								隔年			

教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）

二学	人文地理学演習Ⅱ	3後			2				○			1						隔年	
	人文地理学演習Ⅲ	3前			2				○			1						隔年	
	人文地理学演習Ⅳ	3後			2				○			1						隔年	
	地理学調査実習	3通			2				○			1						隔年	
	地誌Ⅰ	2③	○	1					○			1						隔年	
地誌Ⅱ	2④	○	1					○			1							隔年	
小計（13科目）		—	—	6	14	0			—			0	1	0	0	0	1	隔年	
法学・政治学	法学概説Ⅰ	2①	○	1					○									1	
	法学概説Ⅱ	2②	○	1					○									1	
	政治学概説	2前・3前	○	2					○									1	
	法学特講Ⅰ	3③		1					○									1	
	法学特講Ⅱ	3④		1					○									1	
	政治学特講	4後		2					○									1	
	法学演習Ⅰ	3前		2					○		1	1						オムニバス	
	法学演習Ⅱ	3後		2					○		1	1						隔年	
	法学演習Ⅲ	3前		2					○		4	3						隔年	
	法学演習Ⅳ	3後		2					○		4	3						隔年	
小計（10科目）		—	—	0	16	0			—			4	3	0	0	0	2	隔年	
社会学・経済学	社会学概説	4後	○	2					○									1	
	経済学概説Ⅰ	2①	○	1					○			1							
	経済学概説Ⅱ	2②	○	1					○			1							
	社会学特講	3前		2					○									1	
	経済学特講Ⅰ	3③		1					○			1							
	経済学特講Ⅱ	3④		1					○			1							
	経済学演習Ⅰ	3前		2					○			1						隔年	
	経済学演習Ⅱ	3後		2					○			1						隔年	
	経済学演習Ⅲ	3前		2					○			1						隔年	
	経済学演習Ⅳ	3後		2					○			1						隔年	
	地域調査実習	3通		2					○			1						隔年	
小計（11科目）		—	—	0	18	0			—			0	1	0	0	0	1	隔年	
哲学・倫理学	哲学概説Ⅰ	2③・3③	○	1					○			1						隔年	
	哲学概説Ⅱ	2④・3④	○	1					○			1						隔年	
	倫理学概説Ⅰ	2③	○	1					○			1						隔年	
	倫理学概説Ⅱ	2④	○	1					○			1						隔年	
	哲学特講Ⅰ	2③・3③		1					○			1						隔年	
	哲学特講Ⅱ	2④・3④		1					○			1						隔年	
	倫理学特講Ⅰ	3①		1					○			1						隔年	
	倫理学特講Ⅱ	3②		1					○			1						隔年	
	倫理学演習Ⅰ	3前		2					○			1						隔年	
	倫理学演習Ⅱ	3後		2					○			1						隔年	
	倫理学演習Ⅲ	3前		2					○			1						隔年	
	倫理学演習Ⅳ	3後		2					○			1						隔年	
	小計（12科目）		—	—	0	16	0			—			1	0	0	0	0	0	隔年
教科の指導法	中等社会科教育（社会・公民）Ⅰ	2前	○	2					○			1							
	中等社会科教育（社会・地理歴史）Ⅰ	2後	○	2					○			1	1						
	中等社会科教育（社会・公民）Ⅱ	3前	○	2					○			1							
	中等社会科教育（社会・地理歴史）Ⅱ	3④	○	2					○			1	1						
	小計（4科目）		—	—	8	0	0			—			1	1	0	0	0	0	
関連科目	社会科教育演習Ⅰ	3前		2					○			1						隔年	
	社会科教育演習Ⅱ	3後		2					○			1						隔年	
	社会科教育演習Ⅲ	3前		2					○			1						隔年	
	社会科教育演習Ⅳ	3後		2					○			1						隔年	
	社会科教育演習Ⅴ	3前		2					○			1	1					隔年	
	社会科教育演習Ⅵ	3後		2					○			1	1					隔年	
	社会科教育演習Ⅶ	3前		2					○			1	1					隔年	
	社会科教育演習Ⅷ	3後		2					○			1	1					隔年	
	小計（8科目）		—	—	0	16	0			—			1	1	0	0	0	0	
小計（75科目）		—	—	18	102	0			—			4	3	0	0	0	4		
代数学	代数学序論A	2①	○	1					○			1							
	代数学序論B	2②	○	1					○			1							
	代数学概論A	2③	○	1					○			1							
	代数学概論B	2④	○	1					○			1							
	代数学講義A	3①	○	1					○			1							
	代数学講義B	3②	○	1					○			1							
	代数学特論	3後		2					○			1							
	代数学演習	4前		2					○			1							
	小計（8科目）		—	—	0	10	0			—			1	0	0	0	0	0	
	幾何学	幾何学序論A	2①	○	1					○			1						
幾何学序論B		2②	○	1					○			1							
幾何学概論A		2③	○	1					○			1							
幾何学概論B		2④	○	1					○			1							
幾何学講義A		3①	○	1					○			1							
幾何学講義B		3②	○	1					○			1							
幾何学特論		3後		2					○			1							
幾何学演習		4前		2					○			1							
小計（8科目）		—	—	0	10	0			—			1	0	0	0	0	0		
解析学	解析学序論A	2①	○	1					○			1							
	解析学序論B	2②	○	1					○			1							
	解析学概論A	2③	○	1					○			1							
	解析学概論B	2④	○	1					○			1							
	解析学講義A	3①	○	1					○			1							
	解析学講義B	3②	○	1					○			1							
	解析学特論	3後		2					○			1							
	解析学特論	3後		2					○			1							

…目（数学専攻）

確率論・統計学	解析学演習	4前		2		○			1								
	小計（8科目）	-	-	0	10	0	-		0	1	0	0	0	0	0		
コンピュータ	確率統計学A	2③	○	1		○			1								
	確率統計学B	2④	○	1		○			1								
	小計（2科目）	-	-	0	2	0	-		0	1	0	0	0	0	0		
	計算機概論A	3①	○	1		○			1								
	計算機概論B	3②	○	1		○			1								
	情報数学A	3①		1		○			1								
	情報数学B	3②		1		○			1								
	応用数学特論	3後		2		○			1								
応用数学演習	4前		2			○		1									
小計（6科目）	-	-	0	8	0	-		0	1	0	0	0	0	0			
教科の指導法	数学科教育Ⅰ	2前	○	2		○			1								
	数学科教育Ⅱ	2後	○	2		○			1								
	数学科教育Ⅲ	3前	○	2		○			1								
	数学科教育Ⅳ	3後	○	2		○			1								
	数学科教育特論A	3後		2		○			1								
	数学科教育特論B	3後		2		○			1								
小計（6科目）	-	-	8	4	0	-		0	2	0	0	0	0	0			
小計（38科目）	-	-	8	44	0	-		2	4	0	0	0	0	0			

教科及び教科の指導法に関する科目（理科専攻）

物理学	基礎物理学A	2①	○	1		○			1									
	基礎物理学B	2②	○	1		○			1									
	基礎物理学演習	2①		1			○		1									
	物理学Ⅰ	2後		2		○			1									
	物理学Ⅱ	2後		2		○			1									
	物理学基礎研究	3④		2			○		1									
	物理学実験A	3①	○	1				○	1									
	物理学実験B	3②		1				○	1									
	小計（8科目）	-	-	2	9	0	-		0	1	0	0	0	0	0			
	化学	基礎化学A	2③	○	1		○			1								
		基礎化学B	2④		1		○			1	1							
		基礎化学演習	2後		1			○		1	1							
		化学Ⅰ	2前		2		○			1								
化学Ⅱ		2前		2		○			1									
化学基礎研究		3④		2			○		1	1								
化学実験A		3①	○	1				○	1	1								
化学実験B		3②		1				○	1	1								
小計（8科目）	-	-	2	9	0	-		1	1	0	0	0	0	0				
生物学	基礎生物学A	2①	○	1		○			1									
	基礎生物学B	2②		1		○			1									
	基礎生物学演習	2後		1			○		1									
	生物学Ⅰ	2後		2		○			1									
	生物学Ⅱ	3前		2		○			1									
	生物学基礎研究	3④		2			○		1									
	生物学実験A	3①	○	1				○	1							2		
	生物学実験B	3②		1				○	1							2		
小計（8科目）	-	-	2	9	0	-		1	0	0	0	0	0	0				
地学	基礎地学A	2①	○	1		○											1	
	基礎地学B	2②		1		○											1	
	基礎地学演習	2前		1			○		2	2							共同	
	地学Ⅰ	4後		2			○										1	
	地学Ⅱ	4後		2			○										1	
	地学基礎研究	3④		2				○	1	1							隔年	
	地学実験A	3①	○	1				○									1	
	地学実験B	3②		1				○									1	
小計（8科目）	-	-	2	9	0	-		3	3	0	0	0	0	0		5		
教科の指導法	中等理科教育法Ⅰ	2前	○	2		○			1									
	中等理科教育法Ⅱ	2後	○	2		○			1	1								
	中等理科教育法Ⅲ	3前	○	2		○			1	1								
	中等理科教育法Ⅳ	3④	○	2		○			1	1								
	理科教育基礎研究	3④		2			○		1	1								
	理科教育実践入門	1後		2			○		1	1								
小計（6科目）	-	-	8	4	0	-		1	1	0	0	0	0	0				
小計（38科目）	-	-	16	40	0	-		2	3	0	0	0	0	0		7		

教科に関する専門的事項

英語学	英語学Ⅰ	2前	○	2		○			1								
	英語学Ⅱ	2後	○	2		○											
	英語音声学	2前	○	2		○				1							
	英語学講読	3前		2		○											1
	英語学演習	2後		2			○		1								
	英語学課題研究	3後		2			○		1								
小計（6科目）	-	-	6	6	0	-		1	1	0	0	0	0	0		1	
英語文学	英語文学	3前	○	2		○											1
	英語文学演習Ⅰ	3後	○	2			○										1
	英語文学演習Ⅱ	3前	○	2			○			1							
	英語文学課題研究	3後		2			○		1								
小計（4科目）	-	-	6	2	0	-		0	1	0	0	0	0	0		1	
英会話・英作文	英会話	2前	○	2		○				1							
	英作文Ⅰ	2前	○	2		○				1							
	英作文Ⅱ	2後	○	2		○				1							
	小計（3科目）	-	-	6	0	0	-		0	2	0	0	0	0	0		0
異文化理解	異文化理解	3後	○	2		○				1							
	英語科教育Ⅰ	2前	○	2		○			1								

攻)	教科の指導法	英語科教育Ⅱ	2後	○	2			○				1									
		英語科教育Ⅲ	3前	○	2			○				1									
		英語科教育Ⅳ	3後	○	2			○													
		英語科教育課題研究	3後			2		○				1	2								
		小計(5科目)			8	2	0				1	2	0	0	0	0	0				
		小計(19科目)			28	10	0				1	3	0	0	0	0	2				
	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	2前	○	1							1									
		ソルフェージュⅡ	2後			1						1									
		小計(2科目)			1	1	0				0	1	0	0	0	0	0				
	声楽	声楽演習Ⅰ	1前・2前	○	2				○			1						1	オムニバス		
		声楽演習Ⅱ	1後・2後	○	2				○			1									
		声楽演習Ⅲ	2前			2			○			1									
		声楽演習Ⅳ	2後			2			○			1									
		声楽実技Ⅰ	3前			1				○		1									
		声楽実技Ⅱ	3後			1				○		1									
		合唱Ⅰ	2前	○	1					○		1						1	オムニバス		
		合唱Ⅱ	2後			1				○		2							オムニバス		
		合唱Ⅲ	3前	○	1					○		1							1	オムニバス	
		合唱Ⅳ	3後			1				○		2								オムニバス	
		小計(10科目)			6	8	0				0	2	0	0	0	0	2				
	器楽	器楽演習AⅠ	1前・2前	○	2				○			1							2	オムニバス	
		器楽演習AⅡ	1後・2後	○	2				○			1							1		
		器楽演習AⅢ	2前			2			○			1									
		器楽演習AⅣ	2後			2			○			1									
		器楽実技AⅠ	3前			1				○		1									
		器楽実技AⅡ	3後			1				○		1									
		器楽演習BⅠ	1前・2前	○	2				○			1									
		器楽演習BⅡ	2後			2			○			1	1								
		器楽演習BⅢ	2前			2			○			1	1								
		器楽演習BⅣ	2後			2			○			1	1								
		器楽実技BⅠ	3前			1				○		1	1								
		器楽実技BⅡ	3後			1				○		1	1								
		合奏Ⅰ	2後	○	1					○		1	1							オムニバス	
		合奏Ⅱ	2前			1				○		1									
合奏Ⅲ	3後			1				○		1	1										
伴奏法演習	3後			2				○		1	1										
		小計(16科目)			7	18	0				1	2	0	0	0	0	2				
	指揮法	指揮法	2前・3前	○	2			○										1			
	音楽理論・作曲法・音楽史	音楽理論A	2前	○	2				○			1									
		音楽理論BⅠ	1後	○	2				○			1									
		音楽理論BⅡ	2後			2				○		1									
		音楽史Ⅰ	1後	○	2					○		1								1	オムニバス
		音楽史Ⅱ	2後			2				○		1									
		作曲法	2前	○	2					○		1									
		音楽学演習Ⅰ	3前			2				○		1									
		音楽学演習Ⅱ	3後			2				○		1									
		作曲演習Ⅰ	3前			2				○		1									
		作曲演習Ⅱ	3後			2				○		1									
		小計(10科目)			8	12	0				0	2	0	0	0	0	1				
	教科の指導法	音楽科教育法Ⅰ	1後	○	2				○		1										
		音楽科教育法Ⅱ	2前	○	2				○		1										
		音楽科教育法Ⅲ	3前	○	2					○		1									
		音楽科教育法Ⅳ	3④	○	2					○		1									
		小計(4科目)			8	0	0				1	0	0	0	0	0	0	0			
	絵画	絵画基礎Ⅰ	1後	○	2				○		1										
		絵画基礎Ⅱ	2前	○	2					○		1									
		絵画演習Ⅰ	2後			2				○		1									
		絵画演習Ⅱ	2前・3前			2				○		1									
		絵画演習Ⅲ	3後			2				○		1									
			小計(5科目)			4	6	0			1	0	0	0	0	0	0				
	彫刻	彫刻基礎Ⅰ	1前	○	2					○		1									
		彫刻基礎Ⅱ	2前			2				○		1									
		彫刻演習Ⅰ	2後			2				○		1									
		彫刻演習Ⅱ	2前・3前			2				○		1									
		彫刻演習Ⅲ	3後			2				○		1									
			小計(5科目)			2	8	0			1	0	0	0	0	0	0				
	デザイン	デザイン基礎Ⅰ	1前	○	2					○		1									
		デザイン基礎Ⅱ	2前			2				○		1									
		デザイン演習Ⅰ	2後			2				○		1									
デザイン演習Ⅱ		2前・3前			2				○		1										
デザイン演習Ⅲ		3後			2				○		1										
		小計(5科目)			2	8	0			1	0	0	0	0	0	0					
工芸	工芸基礎	1前	○	2					○		1										
	工芸演習Ⅰ	2後			2				○		1										
	工芸演習Ⅱ	2前・3前			2				○		1										
	小計(3科目)			2	4	0				1	0	0	0	0	0	0					
美術理論・美術史	美術概論	2①	○	1					○		1										
	美術史	2①	○	1					○		1										
		小計(2科目)			2	0	0			1	0	0	0	0	0	0					
(美術・工芸)	教科の指導法	美術科教育法Ⅰ	2前	○	2				○			1									
		美術科教育法Ⅱ	3前	○	2					○			1								
		美術科教育演習Ⅰ	2前	○	2						○		1								
		美術科教育演習Ⅱ	3前	○	2							1									
		小計(5科目)			8							4									

高	法	小計(4科目)	-	-	8	0	0	-	1	1	0	0	0	0		
免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技 I	2前・3前	○	1			○	1	1						
		体育実技 II	3前	○	1			○						1		
		体育実技 III	2前・3前	○	1				○	1						
		体育実技 IV	3前	○	1				○	3	2					
		体育実技 V	2④・3④	○	1				○	2						
		体育実技 VI	2④・3④	○	1				○	1						
		体育実技 VII	2前・3前	○	1				○							
		体育実技 VIII	3前	○	1				○	1	1					
		体育実技 IX	4後	○	1				○	3	2					
		野外活動	3通	○		1			○	1	1					
		小計(10科目)	-	-	7	3	0	-	3	2	0	0	0	2		
免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理	3前	○	2			○	3	2						
		体育心理学	2後	○	2			○		1						
		体育経営管理学	2前	○	2				○							
		体育社会学	3前	○	2				○							
		運動学	3④	○	2				○	1						
		保健体育科課題研究 I	3前	○	2				○	1	1					
		保健体育科課題研究 II	3④	○	2				○	1	1					
				小計(7科目)	-	-	2	12	0	-	3	2	0	0	0	2
		免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	生理学(運動生理学を含む。)	2前	○	2			○	1	1				
				生理学実験・演習	2後	○	2			○	1	1				
衛生学(公衆衛生学を含む。)	2③			○	1				○	1						
保健体育科課題研究 III	3前			○	2			○	1	1						
保健体育科課題研究 IV	3④			○	2			○	1	1						
		小計(5科目)	-	-	3	6	0	-	1	1	0	0	0	0		
免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	学校保健 I	2前	○	2			○	1							
		学校保健 II	3前	○	2			○	1							
		保健体育科課題研究 V	3前	○	2				○	1						
		保健体育科課題研究 VI	3④	○	2				○	1						
				小計(4科目)	-	-	2	6	0	-	2	0	0	0	0	
免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	保健体育科教育 I	2前	○	2			○	1	2						
		保健体育科教育 II	2後	○	2			○	1	2						
		保健体育科教育 III	3前	○	2				○	1	2					
		保健体育科教育 IV	3④	○	2				○	1	2					
				小計(4科目)	-	-	8	0	0	-	1	2	0	0	0	
免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	木材加工 I	3①	○	1			○	1							
		木材加工 II	3②	○	1			○	1							
		木材加工 III	2③			1			○	1						
		木材加工 IV	2④			1			○	1						
		木材加工実習 I	3①	○	1				○	1						
		木材加工実習 II	3②	○	1				○	1						
		金属加工 I	2③	○	1				○	1						
		金属加工 II	2④	○	1				○	1						
				小計(8科目)	-	-	6	2	0	-	3	0	0	0	0	
		免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械 I	2①	○	1			○	1					
機械 II	2②			○	1			○	1							
機械実験実習 I	3①			○	1				○	1						
機械実験実習 II	3②			○	1				○	1						
				小計(4科目)	-	-	4	0	0	-	1	0	0	0	0	
免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	電気 I	2①	○	1			○						1		
		電気 II	2②	○	1			○						1		
		電気実習 I	3④			1			○					1		
		電気実習 II	3④			1			○					1		
				小計(4科目)	-	-	2	2	0	-	0	0	0	0	0	
免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	栽培 I	2③	○	1			○	1							
		栽培 II	2④	○	1			○	1							
		栽培実習 I	2①	○	1				○	1						
		栽培実習 II	2②	○	1				○	1						
				小計(4科目)	-	-	4	0	0	-	1	0	0	0	0	
免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	情報とコンピュータ I	2①	○	1			○	1							
		情報とコンピュータ II	2②	○	1			○	1							
		情報とコンピュータ実習 I	2①	○	1				○	1						
		情報とコンピュータ実習 II	2②	○	1				○	1						
				小計(4科目)	-	-	4	0	0	-	1	0	0	0	0	
免許教科：中・高（工業）	教科に関する専門的事項	職業指導	3④			2		○	1							
		技術科教育 I	2前	○	2			○	1							
		技術科教育 II	3前	○	2				○	4						
		技術科教育 III	3④	○	2				○	1						
		技術科教育 IV	3前	○	2				○	1						
		工業科教育法 I	2前・3前			2			○					1		
		工業科教育法 II	3④・4④			2			○					1		
		小計(6科目)	-	-	8	4	0	-	4	0	0	0	0			
免許教科：中・高（工業）	教科に関する専門的事項	技術基礎実習	1前			1		○	4							
		家庭経営学 I	3①	○	1			○	1							
免許教科：中・高（工業）	教科に関する専門的事項	家庭経営学 II	3②	○	1			○	1							
		家庭経営学演習	4③			1		○	1							
		家政学原論 I	2①	○	1				○	1						
		家政学原論 II	2②			1			○	1						
		家庭経済学	3③			1			○	1						
		家庭経済学演習	3④			1			○	1						
		家族関係学	2前	○	2				○	1						
				小計(8科目)	-	-	5	4	0	-	1	0	0	0	0	

理学	臨床心理学演習	3前		2		○			1									
	小計(4科目)	-	-	2	6	0	-		1	2	0	0	0	0	0			
応用心理学	社会・集団・家族心理学	3前		2		○											1	
	産業・組織心理学	2後・3後		2		○			1									
	小計(2科目)	-	-	0	4	0	-		1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	小計(17科目)	-	-	9	22	0	-		3	3	0	0	0	0	0	0	3	
特別支援教育に関する科目	特別支援教育概論	1前	○	2					1	1							オムニバス	
	特別支援教育史	1後		2		○			1								オムニバス	
	特別支援教育研究法	3前		2		○			2	2							オムニバス	
	小計(3科目)	-	-	2	4	0	-		3	2	0	0	0	0	0	0		
	特別支援教育領域に関する科目	知的障害児教育総論	1前	○	2					1	1							オムニバス
		知的障害児心理学	1後	○	2					1								
		知的障害児教育課程論	3前	○	2						1							共同・集中
		知的障害児指導法Ⅰ	1通	○	2					2	2							共同・集中
		知的障害児指導法Ⅱ	2通	○	2			○		2	2							共同・集中
		知的障害児指導法Ⅲ	3前	○	2					1	2							共同・集中
		肢体不自由児教育総論	1③	○	1			○		1								
		肢体不自由児指導法	2前	○	2					1								
		肢体不自由児心理学	1④	○	1					1								
病弱児教育総論		2①	○	1							1							オムニバス
病弱児指導法	3後	○	2							2								
病弱児の心理・生理・病理	2②	○	1							1								
知的障害児発達評価法	3後		2			○		1										
小計(13科目)	-	-	14	8	0	-		2	3	0	0	0	0	0	0			
別免許状に定める領域以外の領域に関する科目	聴覚障害児教育総論	2前		2					1									
	重複障害児教育総論	2後	○	2						1								
	学習障害児支援論	2後		2					1									
	発達障害児支援論	2前	○	2					1									
	特別支援教育教材開発論	3前		2						1								
	障害児臨床応用演習Ⅰ	3通	○	2			○		1									
	障害児臨床応用演習Ⅱ	3通	○	2						1								
	障害児臨床応用演習Ⅲ	3通	○	2					1									
	障害児臨床応用演習Ⅳ	3通	○	2						1								
	障害児臨床応用演習Ⅴ	3通	○	2					1									
	小計(10科目)	-	-	4	16	0	-		3	2	0	0	0	0	0	0		
	小計(26科目)	-	-	20	28	0	-		2	3	0	0	0	0	0			
養護に関する科目及び教科の指導法	基礎医科学	解剖学	1前	○	2				1									オムニバス
		生理学	1後	○	2				1									共同
		生理学実習	2前		2					2		1						
		微生物学・免疫学	2前	○	2					1								
		薬理学	2後	○	2													
		病理学	2前		2					1								
		生化学	1後		2					1								
		栄養学(食品学を含む。)	2前	○	2						1							
	小計(8科目)	-	-	10	6	0	-		2	1	1	0	0	0	2			
	臨床医科学・看護学	看護学概説Ⅰ	2後	○	2						1							
		看護学概説Ⅱ	3①	○	1							1						
		看護学概説Ⅲ	3②		1							1						
		看護学実習Ⅰ	3①	○	1							1						共同
		看護学実習Ⅱ	3②	○	1							1						共同
		内科学	2後		2					1								1
		皮膚科学	2後		1													オムニバス
		小児科学	3前		2					1								6
		外科学	2前	○	1													8
		整形外科	2後		1													6
		眼科学	2後		1													4
		歯科学	2前		1													1
		耳鼻咽喉科学	2後		1													1
	産婦人科学	2前		1							1						2	
	精神保健学	3前	○	2													9	
	臨床実習Ⅰ	3後	○	3					1	1	1						共同	
	臨床実習Ⅱ	3後		1					1	1	1						共同	
小計(17科目)	-	-	11	12	0	-		2	1	1	1	0	0	0	38			
教育保健	学校保健Ⅰ(小児保健を含む。)	2前	○	2					1									
	学校保健Ⅱ(小児保健を含む。)	2後		1					1									
	学校保健Ⅲ	4前		1													1	
	養護概論Ⅰ	1前	○	2													2	
	養護概論Ⅱ	2前	○	2													2	
	養護概論Ⅲ	3後		1													1	
	衛生学	1前	○	2							1							
	公衆衛生学Ⅰ	1後	○	2							1							
	公衆衛生学Ⅱ	2後		1							1							
	公衆衛生学実習	3前		2							1						2	
	予防医学	3後	○	1							1							
	学校救急処置Ⅰ	3①	○	1								1						
	学校救急処置Ⅱ	3②	○	1								1						
	学校安全	3後	○	1						1		1						1
健康相談	3前	○	2														1	
健康相談活動演習	3前		2														1	
小計(16科目)	-	-	16	8	0	-		1	1	1	0	0	0	6				
教科の	保健科教育法Ⅰ	2後	○	2													1	
	保健科教育法Ⅱ	3前	○	2													1	
	保健科教育法Ⅲ	3後		2						1							1	

指導法	保健科教育法IV	3後		2		○		1					1	
	性に関する指導	3後・4後		1		○		1					1	
	小計 (5科目)	—	—	4	5	0	—	0	1	0	0	0	1	
	小計 (46科目)	—	—	41	31	0	—	2	2	1	0	0	46	
大学が独自に設定する科目	教職実践基礎セミナー	1通	○	2				8	10	1				
	初等教育課題探究	3④	○	1		○			1					
	小学校教科指導探究 (国語)	3②	○	1		○			2					
	小学校教科指導探究 (社会)	3②	○	1		○		4	3					
	小学校教科指導探究 (算数)	3①	○	1		○			1					
	小学校教科指導探究 (理科)	3②	○	1		○		2	2					
	小学校教科指導探究 (英語)	3②	○	1		○		1	2					
	小学校教科指導探究 (音楽)	3①	○	1		○		1						
	小学校教科指導探究 (図工)	3②	○	1		○		1						
	小学校教科指導探究 (保健体育)	3①	○	1		○		1	1					
	小学校教科指導探究 (家庭)	3②	○	1		○			1					
	熊本・学びの最前線 I	1後	○	2		○		1					1	
	熊本・学びの最前線 II	2後	○	2		○		1					1	
	教育実践研究指導法演習	2後・3後・4後		2		○		1						
	教育臨床体験演習	3前		2		○		1	1					
	実技系教科指導探究 I	3①	○	1		○		2						
実技系教科指導探究 II	3②	○	1		○		1	2						
小計 (17科目)	—	—	0	22	0	—	20	21	1	0	0	2		
卒業論文	卒業論文	4通	○	6		○	30	36	1	0	0	0		
幼稚園教諭免許状取得のための授業科目	幼稚園教育課程論	2後			2	○							1	
	保育内容(概論)の理論と方法	3前			2	○							1	
	保育内容(人間関係)の理論と方法	3前			2	○							1	
	保育内容(健康)の理論と方法	3前			2	○		1	1					
	保育内容(環境)の理論と方法	3前			2	○		1						
	保育内容(言葉)の理論と方法	4前			2	○			1					
	保育内容(表現)の理論と方法	3前			2	○		3						
	幼児理解の理論と方法	2④			1	○		1						
	幼児教育指導法	2前			2	○		1	1					
	幼児と健康	2前			2	○			2					
	幼児と人間関係	2前			2	○							1	
	幼児と環境	2後			2	○		2	1					
	幼児と言葉	2後			2	○		1						
	幼児と表現	2後			2	○		3						
小計 (14科目)	—	—	0	0	27	—	7	6	0	0	0	4		
公認心理師受験資格取得のための必須科目	心理演習	4通			2	○		1	2				1	
	心理実習	4通			2	○		1	4				4	
	小計 (2科目)	—	—	0	0	4	—	1	4	0	0	0	4	
	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	公認心理師の職責	1後			2	○			1				1
		知覚・認知心理学	3後			2	○							
		学習・言語心理学	2後			2	○			1				
		神経・生理心理学	3前			2	○							1
		障害者・障害児心理学	3後			2	○		1	1				
		健康・医療心理学	2後・3後			2	○							1
		福祉心理学	2後			2	○							1
		司法・犯罪心理学	1後			2	○			1				
人体の構造と機能及び疾病		2前・2後			2	○			1					
精神疾患とその治療	3前			2	○							1		
関係行政論	2前			2	○							1		
小計 (11科目)	—	—	0	0	22	—	1	2	0	0	0	6		
小計 (13科目)	—	—	0	0	26	—	2	4	0	0	0	7		
学芸員科目 社会教育士科目	博物館概論	1前			2	○							1	
	博物館経営論	1後			2	○							1	
	博物館資料論	2前			2	○							1	
	博物館資料保存論	2後			2	○							1	
	博物館展示論	2前			2	○							1	
	博物館教育論	3前			2	○							1	
	博物館情報・メディア論	3前			2	○							1	
	博物館実習 I	1前			1		○						1	
	博物館実習 II	2後			1		○						1	
	博物館実習 III	3前			1		○						1	
小計 (10科目)	—	—	0	0	17	—	0	0	0	0	0	1		
小計 (591科目)	—	—	364	515	70	—	30	36	1	0	0	101		
小計 (594科目)	—	—	369	515	70	—	30	36	1	0	0	101		
合計 (1,190科目)	—	—	382	1291	70	—	30	36	1	0	0	322		
学位又は称号	学士 (教育学)		学位又は学科の分野		教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法	授業期間等													
4年以上在学し、以下により125単位以上を修得すること。	1 学年の学期区分							2 期						
	1 学期の授業期間							15 週						
	1 時限の授業時間							90 分						
【教養教育】 必修外国語科目 8 単位、情報基礎科目 2 単位、肥後熊本学 1 単位、体育・スポーツ科学科目 2 単位並びに自由選択外国語科目、リベラルアーツ科目、現代教養科目、Multidisciplinary Studies、キャリア科目及び開放科目から16単位、合計29単位以上修得すること。(現代教養科目「暮らしの中の憲法 (2 単位)」は修得しなければならない。)														

【専門教育】

○小学校専攻

教育の基礎的理解に関する科目等30単位
教科に関する専門的事項10単位
教科の指導法20単位
大学が独自に設定する科目4単位（地域枠入学者は8単位）
卒業論文6単位
選択12単位（地域枠入学者にあっては8単位）
自由選択14単位

※教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から2単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から2単位を修得しなければならない。
※初等教育実習Ⅰ、初等教育実習Ⅱ、教職実践演習（幼・小）を修得しなければならない。
※心理学専攻の学生は、心理学専攻に関する選択科目のうち、教育・学校心理学演習、発達心理学演習、臨床心理学演習から4単位以上を修得しなければならない。
※大学が独自に設定する科目のうち、教職実践基礎セミナー、初等教育課題探究及び小学校教科指導探究を修得しなければならない。また、熊本・学びの最前線Ⅰ及び熊本・学びの最前線Ⅱについては、地域枠入学者は修得しなければならない。

○国語専攻・社会専攻・数学専攻・理科専攻

教育の基礎的理解に関する科目等30単位
教科に関する専門的事項20単位
教科の指導法8単位
卒業論文6単位
選択18単位
自由選択14単位

※教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から2単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から2単位を修得しなければならない。
※中等教育実習Ⅰ、中等教育実習Ⅱ、教職実践演習（中・高）を修得しなければならない。
※社会専攻の学生は、教科に関する専門的事項の選択科目のうち、法律学概説Ⅰ、法律学概説Ⅱ、政治学概説から2単位以上及び社会学概説、経済学概説Ⅰ、経済学概説Ⅱから2単位以上並びに哲学概説Ⅰ、哲学概説Ⅱ、倫理学概説Ⅰ、倫理学概説Ⅱから2単位以上を修得しなければならない。
※数学専攻の学生は、教科に関する専門的事項の選択科目のうち、代数学序論A、代数学序論B、代数学概論A、代数学概論B、代数学講義A、代数学講義Bから4単位以上、幾何学序論A、幾何学序論B、幾何学概論A、幾何学概論B、幾何学講義A、幾何学講義Bから4単位以上、解析学序論A、解析学序論B、解析学概論A、解析学概論B、解析学講義A、解析学講義Bから4単位以上、確率統計学A、確率統計学Bから1単位以上、計算機概論A、計算機概論Bから1単位以上を修得しなければならない。

○英語専攻

専門基礎科目4単位
教育の基礎的理解に関する科目等30単位
教科に関する専門的事項20単位
教科の指導法8単位
卒業論文6単位
選択18単位
自由選択10単位

※教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から2単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から2単位を修得しなければならない。

○実技系専攻

教育の基礎的理解に関する科目等32単位
教科に関する専門的事項21～24単位
教科の指導法8単位
大学が独自に設定する科目2単位
卒業論文6単位
選択10～14単位
自由選択単位14単位

・教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から2単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から2単位を修得しなければならない。
※中等教育実習Ⅰ、中等教育実習Ⅱ、教職実践演習（中・高）を修得しなければならない。
・保健体育については、教科に関する専門的事項の選択科目のうち、保健体育科課題研究Ⅰ、保健体育科課題研究Ⅱ、保健体育科課題研究Ⅲ、保健体育科課題研究Ⅳ、保健体育科課題研究Ⅴ、保健体育科課題研究Ⅵから2単位以上を修得しなければならない。
※大学が独自に設定する科目のうち、実技系教科指導探究Ⅰ及び実技系教科指導探究Ⅱを修得しなければならない。

○特別支援教育コース【小学校普通免許状を基礎免許とする場合】

教育の基礎的理解に関する科目等33単位
特別支援教育に関する科目24単位
教科に関する専門的事項5単位
教科の指導法12単位
卒業論文6単位
自由選択16単位

※教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から2単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から2単位を修得しなければならない。
※障害児臨床応用演習Ⅰ～Ⅴから、2単位を修得しなければならない。
※教育の基礎的理解に関する科目等の必修科目について、障害児教育実習は修得しなければならない。小学校普通免許状を基礎免許とする場合は初等教育実習Ⅰ、初等教育実習Ⅱ、教職実践演習（幼・小）を修得しなければならない。

○特別支援教育コース【中学校普通免許状を基礎免許とする場合】

教育の基礎的理解に関する科目等33単位
特別支援教育に関する科目24単位
教科に関する専門的事項10～16単位
教科の指導法4単位
卒業論文6単位
自由選択13～19単位

※教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から2単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から2単位を修得しなければならない。
※障害児臨床応用演習Ⅰ～Ⅴから、2単位を修得しなければならない。
※教育の基礎的理解に関する科目等の必修科目について、障害児教育実習は修得しなければならない。中学校普通免許状を基礎免許とする場合は中等教育実習Ⅰ、中等教育実習Ⅱ、教職実践演習（中・高）を修得しなければならない。

○養護教育コース

専門基礎科目1単位
教育の基礎的理解に関する科目等32単位
養護に関する科目37単位
教科の指導法4単位
卒業論文6単位
選択1単位
自由選択15単位

※教職実践演習（中・高）、教職実践演習（養護教諭）、養護実習は、修得しなければならない。

授 業 科 目 の 概 要					
(教育部養護教諭養成課程)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目 (既修)	英語A-1	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを旨とする。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。社会的、学問的なトピックや日常生活のトピックについて英語で話す積極性を養い、ダイアログでの適切な応答、プレゼンテーション、情報交換、ディスカッションなど、スピーキングの基本的なスキルとストラテジーを養う。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目 (既修)	英語A-2	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを旨とする。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」の基礎を身に付ける。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目 (既修)	英語B-1	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを旨とする。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、精読や速読など目的に応じた読み方ができる「読むこと」の基礎を身に付ける。あわせて、書くことの基礎を培う。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目 (既修)	英語B-2	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを旨とする。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」の基礎を身に付ける。さらに、身近な英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、精読や速読など目的に応じた読み方ができる「読むこと」の基礎を身に付ける。加えて、発信型の技能(スピーキングやライティング)につながる総合的なコミュニケーション能力の基礎を培う。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目 (既修)	英語e	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを旨とする。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。大学での学修と国際コミュニケーションに必要な英語基礎力を身につけ、検定試験により各自の英語習熟度を測定し、その結果に応じて授業担当教員のメンタリングを受けながら、継続的に学修に取り組む。学期内に受験するTOEIC IPテストにおいて一定の水準のスコアを獲得することを旨とする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目 (既修)	英語C-1	広範な話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を伸張させ、多様な題材を目的に応じて「聞くこと」ができる技能を身に付ける。さらに、発展的な内容の英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、題材や「読むこと」の目的に応じて精読や速読などを効果的に使い分けることができるとともに、「読むこと」を通して語彙や表現を豊かにする。加えて、発信型の技能(スピーキングやライティング)につながる総合的なコミュニケーション能力を伸張させる。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目 (既修)	英語C-2	広範な話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を伸張させ、多様な題材を目的に応じて「聞くこと」ができる技能を身に付ける。さらに、発展的な内容の英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、題材や「読むこと」の目的に応じて精読や速読などを効果的に使い分けることができるとともに、「読むこと」を通して語彙や表現を豊かにする。加えて、発信型の技能(スピーキングやライティング)につながる総合的なコミュニケーション能力を伸張させる。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語 I-1	ドイツ語初学者が「聞く・話す・読む・書く」能力をバランスよく身につけることを目的とする。できるだけ多くのドイツ語に触れ、場面や状況に即した自然なコミュニケーションを行うことができるようにする。またドイツ(あるいはドイツ語圏)の文化や習慣について理解する。授業は教科書に沿って進め、ドイツ語でのコミュニケーションに必要な知識を身につける。レベルはおおむねヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル、独検5級を想定している。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語 I-2	ドイツ語初学者が「聞く・話す・読む・書く」能力をバランスよく身につけることを目的とする。できるだけ多くのドイツ語に触れ、場面や状況に即した自然なコミュニケーションを行うことができるようにする。またドイツ(あるいはドイツ語圏)の文化や習慣について理解する。授業は教科書に沿って進め、ドイツ語でのコミュニケーションに必要な知識を身につける。レベルはおおむねヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル、独検5級を想定している。

教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語Ⅱ-1	ドイツ語の初歩的な知識を踏まえて、さらに高度な「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。日常のさまざまな場面や状況に即したドイツ語表現を学び、自然なコミュニケーションを行うことができるようになる。また、ドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣に関する理解を深める。授業は教科書に沿って進め、会話練習や聞き取り問題を中心に、ドイツ語の基礎を復習しながら、発展的な文法規則や語彙を身につける。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語Ⅱ-2	ドイツ語の初歩的な知識を踏まえて、さらに高度な「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。日常のさまざまな場面や状況に即したドイツ語表現を学び、自然なコミュニケーションを行うことができるようになる。また、ドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣に関する理解を深める。授業は教科書に沿って進め、会話練習や聞き取り問題を中心に、ドイツ語の基礎を復習しながら、発展的な文法規則や語彙を身につける。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅰ-1	フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習を行う。二人一組かクラス全員と一緒に学習する。フランス語で指示し、フランス語と日本語でのテキストを用いる。本授業は、教科書に沿って授業を行い、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行い、平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションができるようになる。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅰ-2	フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習を行う。二人一組かクラス全員と一緒に学習する。フランス語で指示し、フランス語と日本語でのテキストを用いる。本授業は、教科書に沿って授業を行い、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行い、平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションができるようになる。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅲ-1	動詞活用を含め初級文法を総合的に駆使できるように習熟すると共に、中級レベルへとすすむ。辞書を用いて平易な文章を読解できるようになる。フランス語圏の文化と社会に親しむ。基本動詞の活用形の暗唱と平易な日常フランス語の短文の暗唱とを毎回行う。初級文法の復習を随時織り込めつつ、フランス文学の作品の触りを読解する。本授業を通じて、日常の平易なフランス語の発信、動詞活用を含めた初級文法、辞書を用いた平易な文章の読解ができるようにする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅲ-2	動詞活用を含め初級文法を総合的に駆使できるように習熟すると共に、中級レベルへとすすむ。辞書を用いて平易な文章を読解できるようになる。フランス語圏の文化と社会に親しむ。基本動詞の活用形の暗唱と平易な日常フランス語の短文の暗唱とを毎回行う。初級文法の復習を随時織り込めつつ、フランス文学の作品の触りを読解する。本授業を通じて、日常の平易なフランス語の発信、動詞活用を含めた初級文法、辞書を用いた平易な文章の読解ができるようにする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	中国語Ⅰ-1	発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得します。まず発音練習を集中的に繰り返し、中国語の音に慣れていき、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようになる。事前事後の学習では、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復して行い、その後、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などを身につける。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	中国語Ⅰ-2	発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得します。まず発音練習を集中的に繰り返し、中国語の音に慣れていき、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようになる。事前事後の学習では、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復して行い、その後、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などを身につける。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅰ-1	ハンガルの読み書きができ、正確に発音できるようになるための練習をし、特に平音、激音、濃音の区別やハッチム、発音のルール(音声規則)等に関して詳しく学ぶ。また、「合口体」や「数字」、「指示詞」など、基礎的な韓国語の文法事項を学び簡単な日常会話ができるようになる。授業は主にペア・グループ活動で行い、異文化理解を深めるために、韓国の文化や社会に関して理解を深める。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅰ-2	ハンガルの読み書きができ、正確に発音できるようになるための練習をし、特に平音、激音、濃音の区別やハッチム、発音のルール(音声規則)等に関して詳しく学ぶ。また、「合口体」や「数字」、「指示詞」など、基礎的な韓国語の文法事項を学び簡単な日常会話ができるようになる。授業は主にペア・グループ活動で行い、異文化理解を深めるために、韓国の文化や社会に関して理解を深める。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅱ-1	韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につけます。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。本授業を通じて、学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようにする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅱ-2	韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につけます。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。本授業を通じて、学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようにする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅲ-1	韓国語の中級レベルの文法と表現について学び、韓国語能力試験(TOPIKⅠ・Ⅱ)に合格することを目的とする。また、韓国社会と文化に触れることで異文化理解を深める。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、様々な問題を解きながら、試験対策(聞き取り、書き取り、読解)ができるように学修し、また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国社会と文化について学修する。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅲ-2	韓国語の中・上級レベルの文法と表現について学び、韓国語能力試験(TOPIKⅠ・Ⅱ)に合格することを目的とする。また、韓国社会と文化に触れることで異文化理解を深める。韓国語の中・上級レベルの文法と表現を身につけ、様々な問題を解きながら、試験対策(聞き取り、書き取り、読解)ができるように学修し、また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国社会と文化について学修する。

教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語 I-1		ロシアも含め、いま劇的に変動するロシア語通用圏のコトバを習得するうえで、ロシア語の初歩的な文法を学ぶ。本授業を通じて、キリール文字で読み書きできること、簡単なロシア語の自己表現ができること、基本的な動詞（「読む」や「話す」など）を使って対話を組み立てることができること、ロシア語で自己紹介できることを目指す。授業前に、テキストをつかってあらかじめ「音読」を行い、授業後に学んだことの再確認を行う。一方的な語学の授業にならないように、定期的に履修者同士でロシア語の実践を行う。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語 I-2		ロシアも含め、いま劇的に変動するロシア語通用圏のコトバを習得するうえで、ロシア語の初歩的な文法を学ぶ。本授業を通じて、キリール文字で読み書きできること、簡単なロシア語の自己表現ができること、基本的な動詞（「読む」や「話す」など）を使って対話を組み立てることができること、ロシア語で自己紹介できることを目指す。授業前に、テキストをつかってあらかじめ「音読」を行い、授業後に学んだことの再確認を行う。一方的な語学の授業にならないように、定期的に履修者同士でロシア語の実践を行う。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ラテン語 I-1		ラテン語の単語の多くは様々な活用変化し、主語動詞などの語順は自由で、文の中で使われている単語が、いかなる語のいかなる変化形であるか判別できなければ、文を読むことができない。本授業では、基本的な活用変化について、段階的に学修することを主として、解読できる文を広げていく。本授業を通じて、名詞・形容詞の基本的変化（第1～3変化）、および動詞の直説法各態各時制活用を習得すること。それにより、ラテン語の基本文法の理解し、平易な文の文法的分析ができることを目指す。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ラテン語 I-2		ラテン語の単語の多くは様々な活用変化し、主語動詞などの語順は自由で、文の中で使われている単語が、いかなる語のいかなる変化形であるか判別できなければ、文を読むことができない。本授業では、基本的な活用変化について、段階的に学修することを主として、解読できる文を広げていく。本授業を通じて、名詞・形容詞の基本的変化（第1～3変化）、および動詞の直説法各態各時制活用を習得すること。それにより、ラテン語の基本文法の理解し、平易な文の文法的分析ができることを目指す。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語 I-1		スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語 I-2		スペイン語 I-1に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語 II-1		スペイン語 I-2に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語 II-2		スペイン語 II-1に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ヘブライ語 I-1		聖書ヘブライ語の初級文法についての概説を確認し、練習問題を解くことによって、その知識の定着を促す。文字の書き方と読み方をマスターし、さまざまな音規則、簡単な名詞文の読解、名詞や形容詞の語形変化を学ぶ。ユダヤ文化、ユダヤ人の歴史、現代のイスラエルなどについても紹介する。本授業を通じて、ヘブライ語の発音、文法、語彙の定着、文章の読解を学び、やさしい文が原語で読めるようになることを目指す。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ヘブライ語 I-2		聖書ヘブライ語の初級文法についての概説を確認し、練習問題を解くことによって、その知識の定着を促す。文字の書き方と読み方をマスターし、さまざまな音規則、簡単な名詞文の読解、名詞や形容詞の語形変化を学ぶ。ユダヤ文化、ユダヤ人の歴史、現代のイスラエルなどについても紹介する。本授業を通じて、ヘブライ語の発音、文法、語彙の定着、文章の読解を学び、やさしい文が原語で読めるようになることを目指す。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	イタリア語 I-1		イタリア語の特徴、文法の基礎及び基本的な表現を学修し、イタリアという国について、生活や文化などを概観する。「読む」「聴く」などの基礎的語学力を身に付けるためのテキストを使用し、リスニング教材を用いて、学習項目に沿ったリスニングを行う。本授業を通じて、イタリア語の文法事項を理解し、文章を読解すること、基本的な文章が作成できること、イタリア語の文章を聴き内容を理解すること、簡単なイタリア語での会話をすることを目指す。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	イタリア語 I-2		イタリア語の特徴、文法の基礎及び基本的な表現を学修し、イタリアという国について、生活や文化などを概観する。「読む」「聴く」などの基礎的語学力を身に付けるためのテキストを使用し、リスニング教材を用いて、学習項目に沿ったリスニングを行う。本授業を通じて、イタリア語の文法事項を理解し、文章を読解すること、基本的な文章が作成できること、イタリア語の文章を聴き内容を理解すること、簡単なイタリア語での会話をすることを目指す。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語 I-2		授業は対面で、ペア・グループによる聞き取り・口頭練習、導入文法を使った読み・書き練習を行う。この授業では、日本語の話す・聞く・読む・書くの4技能を身につけながら、N4レベルの文法を学ぶことを目指す。N4レベルの文法を正しく理解し、習った文法を使って正しい文を発話し、書くことができるようになることを目標とする。

教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅱ-2		初級が終わった人を対象に、日常よく接する場面での会話の聞き取り力を高めること、さらに、聞く力を伸ばすことによって、話す力が身につくことを目的としています。登場人物の人間関係や場面が異なるスキットを聞き、タスクを通して内容の理解を深めます。さらに、それぞれの課の重要表現でポイントを確認し、会話の中で使う練習を行う。1. 自然に近いスピードで話される日常会話の具体的な内容が聞き取れるようになること。2. 人間関係や場面、トピックに応じた表現の違いがあることを理解し、自分でも正しく使えるようになること。を目標とする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅲ-1		中級レベル以降の文法、語彙、表現を身につけて、より高い日本語レベルになることを目指す。中級レベルの大切な学習項目のアウトラインを示して、練習問題を中心に進める。1) 中級レベル(日本語能力試験N3-N2レベル)の日本語力を付け、日本語能力試験N2に合格することができること。2) 中級レベルの文法や語彙を使って、文章を読んだり書いたりすることができること。を目標とする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅲ-2		授業では、様々な資料を読んだり、その内容について議論したりしながら、いろいろな分野で使われる語彙を増やし、総合的な日本語力の向上を目指します。読みのストラテジーやスキルを使い、おおまかな意味が早く・的確に理解できるようになること。様々な話題について聞き手のことを配慮した表現や話し方ができるようになること。を目標とする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅳ-1		日本語能力試験N1レベルの文法項目について、その意味・接続・用法・使用制限などを解説する。その後、練習問題を解いて、定着を図る。また、語と語を結びつけて意味の通る文が作れるよう、実際に文を組み立てる練習問題や、まとまった長さの文章の中で文法項目がどのように使われているかを考える練習問題にも取り組む。日本語の読解力や表現力を支える表現文法を学び、既習文法や類似文法との用法・意味の微妙な違いを比較・考察し、練習問題を通して確実に使い分けができるようになることを目標とする。
教養教育科目	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅳ-2		中上級レベルの日本語学習者(日本語レベル4-5、JLPT2級レベル)が、日本の大学生生活で必要とされる「公の場でまとまった内容のことを話したり議論したりする」練習をする。主な活動として、「スピーチ」「ディスカッション」を行い、それぞれのテーマの最後には、発表を行う。留学生在が大学生活の場で必要とされる「スピーチ」や「ディスカッション」について、大学生に求められるレベルのまとまった内容で、できるようにすることを目標とする。
教養教育科目	基礎科目	情報科目		ICTリテラシー		大学生生活に必要なITスキルを身につけるとともに、ネットワーク社会で生きて行くための情報の収集・作成の基礎を修得する。具体的には、パスワードの取り扱いを始めとする情報セキュリティの基礎や電子メール等のオンラインコミュニケーションにおけるネチケット、検索エンジン等用いた情報収集、著作権・知的財産権を理解した上での引用を学び、構造化された文書を作成する能力を身につける。また、不特定多数が利用するWebサービスを含め、情報セキュリティ・法律・情報倫理についても学ぶ。
教養教育科目	基礎科目	情報科目		DSリテラシー		データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習することで、社会における事象を適切に捉え、分析・説明できるようになることを到達目標とする。また、インターネット上で情報発信に必要となるWebサイト作成能力、Webアプリケーション活用能力も併せて身につける。データサイエンスやAIの基礎を学び、データサイエンスに用いられる手法と得られる結果の解釈について把握するために、統計学の基礎的内容を概観するとともに、データサイエンスの手法について説明する。また、インターネット上で情報発信を行うための基礎としてHTMLの基本構造やスタイルシートについて併せて学ぶ。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目		文系のための数学入門		文系の学生が数学とはどのような学問なのかということを理解し、数学の考え方や使い方を身につけることを目的とする。データサイエンスに関する基礎的事項を理解し、実際にR言語を使用してデータの整理や関係の分析、推定や検定ができるようになることを目指し、データの整理から統計的な分析手法までについて取り扱い、実際にR言語によりそれらの処理ができるように、演習を踏まえて講義する。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目		数学の世界		初等整数論に登場する基本的な用語、概念、定理を学び、それらが暗号にどの様に使われているかを理解する。過去の統計活動および確率論に基づく統計学の形成過程について学び、現代社会における確率・統計の役割を知る。データサイエンスやAIの基礎を学び、データサイエンスにおいてどのような方法で結論が導かれるか、どのような利点や問題点があるかを把握する。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目		物理学入門		高校の化学で習ったような物質の成り立ちや性質を電子レベルのエネルギーや運動量という観点から眺めることにより、化学の知識を物理学的な観点から直観的かつ本質的に理解するという学びを通じて、物理学的思考方法を身につける。力学を通して、物理法則である数式で自然現象が説明できることを理解する。現代天文学の基礎事項を学び、我々が住む宇宙についての認識を深め、また天文学の背後にある現代科学の素養を身につける。高圧下での物質の挙動の理解を深めるために、圧力に関する歴史を学び、基礎的な物理法則を習得し、生活の中さらには自然界に存在する圧力とその仕組みを理解すること、さらに高圧下で実際に物質が見せる挙動、現象についての知識を深める。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目		教養の化学		持続可能性について科学的に理解を深めるために、元素の周期表に基づいて物質の世界を化学的視点で捉え、考察できるようになる。人々のくらしで活躍しているガラスについて、その基礎と応用について化学的視点で説明できるようになる。また、持続可能性の課題を克服するために、ガラスが貢献できることについて提案できるようになる。化学がどのように生まれ進化してきたかを学ぶことで、現代の日常生活を支える化学への理解を深めつつ、物事を多面的角度から見ることの重要性を学ぶ。様々な化学的事例を取り上げその化学的特性について考えることで、特徴や性質について覚えるのではなく、考えて理解する化学の基礎を習得する。

教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	生物の世界	過去のノーベル賞受賞研究を紹介する共に、現代における生命科学とどう繋がっているのかを理解する。生き物にみられる環境適応の多様さ・巧妙さを知るとともに、それを創出してきた自然選択(自然淘汰)および進化の原理について正しく理解できるようになる。基本的な生物学的現象を講義し、実験・観察で実際に確認して生物の本来の姿を理解し、生物学的な思考を身につける。生命の設計図である遺伝子DNAを理解し、生命がどのようなシステムで成立しているのかを説明できるようになる。地球上に生命が誕生してからどのように進化したのかを説明できるようにする。水の中にいる生物の驚くべき特徴や生態について学ぶとともに、実際に自分でも特定の生き物や水に関わる現象について調べ、それを分かりやすく発表する。私たちの体がどのように発生し、次世代に命をつなげているのかについて理解する。植物が環境に応じて成長するしくみを学び、その生物学的な特徴と、私たちとの関わりについて理解する。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	地球環境の現状と人類	この宇宙の中で、我々の住む地球とはどのような星なのだろうか。太陽系の各惑星、さらには、太陽系の外に存在する惑星に関する最新の探査、観測によって、宇宙には実に様々な惑星が存在することが明らかとなりつつある。空間的にも、時間的にも広大な宇宙の中に存在するそれら惑星の姿との比較を通して、地球という惑星の存在を理解する。以下の項目について、最新のデータを紹介しつつ講義する。 ・身近な天体-月、太陽と地球の関係と暦 ・太陽系の大きさと宇宙の時間、空間スケール ・地球-月系の特徴と、地球形成以来の地球環境の変遷 ・太陽系形成過程 ・太陽系外惑星系
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	持続可能な都市と地域づくり	熊本県で危機される自然災害、および派生する社会的災害に対する基本的な知識を有するとともに、それに基づいて平常時からまちづくり等の地域活動に関心を持ち、災害時には適切で主導的な対応ができる知識と姿勢が身につけている人材【減災型地域社会のリーダー】の育成を目指す。次の3項目を修得する。自然災害の基本的発生メカニズムを自然科学と社会科学の両面から学ぶ。災害に関する基礎的情報とそれらの取り扱い方、基礎的減災対策の事項を具体的に学ぶ。その上で減災リテラシー入門が目指す「減災型地域社会」の提示と、それに関わる様々なステークホルダーの役割と相互理解の必要性、減災リーダーに求められる資質を理解する。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	豊かさを持続させるものづくり	地球温暖化を紹介し、環境問題を抑制するPPTを用いた再生可能エネルギーの基礎研究について説明し、バイオマス・エネルギーに関する基礎知識を理解する。毎回、先端の科学技術にかかわるいくつかのトピックを取り上げて講義し、科学技術発展の現状を理解するとともに、現在ある課題を理解することに加えて、科学技術の未来について学ぶ。本授業を通じて、エネルギーと社会・暮らしとの関わりについて考えを展開していくためのきっかけや手がかりを見出し、広く深く思考展開ができることを目指す。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	日々の生活に垣間見る情報と通信	テレビ、ラジオ、携帯電話など、電波を利用した電子機器がいかなる機能をもつ部品と回路の組合せてできているかを、電波の原理を学ぶ講義と中波ラジオの製作実習を通して理解する。ハードウェア、ソフトウェアの基礎を解説、誰にでもできる簡単な指導を行い、スイッチやセンサの値を読み取ることができたり、LEDやモータを制御することができたりするようになる。基本的な電波通信の仕組みを理解し、教員やTAのアドバイスのもとで、電気回路の配線と機器のデザインができることを目指す。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	倫理学入門	現代社会の倫理的問題に関して、その内容や問題の射程を理解し、それらについて、倫理的な考え方を踏まえて自分の考えを持つことができるようになる。小・中学校の道徳の授業で用いられる教材をいくつか取り上げ、そこに含まれる価値や規範(規則遵守や生命尊重、公平・公正や思いやりなど)について哲学・倫理学の観点から考察を深める。また、善・悪や正・不正について子どもたちが抱く素朴な疑問について、大人はどう向かい合えばよいのかを考える。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	心と世界	人間の生命活動を論じる上で、中心的なテーマとなる心と行為について、心とは何か、人間とは何か、なぜ行為が問題か、なぜ哲学の中心問題は心と行為か、行為の正・不正、正義、幸福、行為の選択をめぐる問題等について論じ、心、行為、人間、意志、自由といった基本的な日常語について理解を深めた上で、これまでの自分の考え方を、少しでも自分で見直すことができるようになる。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	思考と論理	現代論理学(自然演繹法による)の基礎を学び、論証(推論)の正しさを見分ける技術と感覚を身につける。この授業では、現代論理学の基礎にある概念や記号法、証明技術を学んで、論理的に考える手助けとし、さらに論理とは何かについて理解を深めることを目指す。本授業を通じて、日本語文の論理構造を把握し、十分に形式言語で表記ができ、また論理学の証明方法を使って推論の妥当性を容易に証明できるようになる。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	現代心理行動学	特別支援教育に含まれている心理学的なトピックスを取り上げ、講義を受講後、グループで協議し、授業後にMoodle上のまとめテストに解答することを通じて人の「こころ」についての理解を深める。また、グループ協議を通じて、多様な人との社会性を身につける。心理学の観点から発達をとらえ、また様々な発達の障害について理解することで、人間の生涯発達の諸現象について深く考察する。「社会」の中における対人関係スタイルの成り立ちを理解し、共に生きる関係構築の方法を実生活の中で模索する。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	こころの科学	こころについて科学的に見たり考えたりする方法を学修する。こころについて、心理学の幾つかの領域(心理学全般、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学、周辺領域)から学修し、様々な領域にわたって心理学に関する基礎的な知識を身につけ、生活場面で活用できるようにする。また、不登校について取り上げ、不登校の対象理解と対処や不登校が果たす社会的機能について学ぶ。
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	芸術文化論	「現代音楽文化」の基本となる西洋音楽の歴史と理論を学ぶことにより、豊かな教養と感性を身につけ、さらには世界における「自分の文化」を考えることができるようになる。スベクトル楽派、ミニマル・ミュージック、ポスト・ミニマリズム、新ロマン主義、パフォーマンス作品、楽器によるミュージック・コンクレート、引用の音楽、ノイズ、ミュージック・シアター、国際的に活躍するアジアの作曲家の動向、担当教員の自作品について、多くの視聴覚資料を用いながら解説し、興味・関心を持った21世紀の作曲家、作品について自ら主体的に調べ学習を行い、知識を高め、より深く理解し、自らの言葉で詳細に説明することができるようになる。

教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	文学の諸相		文豪たちが生み出した近・現代の日本文学について、その時代に良いと思われていたこと・悪いと思われていたこと、作者が良いと思っていたこと・悪いと思っていたことの相関関係において講じ、時代との関連においてどのような文学的表現が出現するか歴史的な知見を得る。他言語で書かれたテキストをもとに、「食」に焦点をあて他文化や他言語について学ぶ。食や言語をめぐる様々なテキストに触れ、他文化について深い知識を身につける。	
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	モノが語る歴史		日本を中心に東アジアにおける食文化の実態と変遷について、考古学の最新成果を通して理解する。また、文献史学、民族学、さらには理化学分析などの成果と考古学を融合しながら、いかにして食文化の歴史的側面に迫ることができるのかを考える。様々な角度から主食を中心とする食文化を眺め、相対化することで日常的な食事の歴史的成り立ちを学びます。特に、考古学は過去の人々の日常的な食文化を復元するのに最適な学問です。それに文献史学や民族学を加え、さらには近年その成果が蓄積されつつある化学分析を合わせることで、より具体的な食文化の歴史的実態にアプローチします。	
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	地域の世界史		現代中国にも大きな影響を残しつつある近代以前の中国の社会と国家の仕組みと特質を知り、人類社会の多様性を理解する。近代イギリスの歴史と文化についての知識と理解を深め、現代イギリス社会やイギリス文化の歴史的起源を長期かつグローバルな観点から説明できるようになる。現代イギリス社会の問題やイギリス文化を歴史的な観点から説明できるようにする。韓国の社会と文化についての知識と理解を深め、日韓の異なる文化や価値観を共有し認識することで、現代の日韓関係の在り方を考える。西洋の中世史、近世史、近代史に関する基礎的な知識を摂取しながら、その流れを大まかに理解し、世界史における西洋世界の位置づけの変化を理解できるようになる。	
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	日本社会の歴史		江戸・明治時代の歴史から、日本人の意識や心性の形成過程を考える。歴史学を実証的に分析するには、物事を客観的かつ理論的にとらえる能力が求められます。そして理論を実践的に転換する手段として、博物館をテーマに取り上げ、まず博物館の歴史の変遷を正しく理解する。その結果、今後あるべき日本の博物館、さらには地域の文化行政のありかたについて考える。260年以上も続いた江戸時代を終わらせ、現代日本につながる社会をもたらした明治維新という変革について知り、その意義を理解できるようになる。戦国時代と現代との繋がりを理解し、また、戦国動乱が収束して内戦が長く凍結された要因を探ることで、未来に向けての平和主義の発展のための歴史的基盤を探究する。	
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	法学の基礎		民事事件の重要な問題について、基本的知識を得た上で、受講生が具体的に筋道を立てて思考し問題解決を図ることができるようになる。法学の基本的な考え方を知り、身近な問題に対して法的知見に基づく理解力・洞察力を身につける。基本的な消費者取引関連法の概要が理解できる。消費者取引のトラブルについて、解決方法を導く力を身につける。消費者に縁の深い決済方法について理解できる。法哲学という学問分野の中でも「法とは何か」という問題に取り組む法概念論を研究し、「法」の概念がいかなる内容と問題性を有しているのかを検討するとともに、「法」の概念を用いることで私たちは結局何をし(ようと)しているのかを探究する。探究を通して、主に法を素材にしつつ哲学的思考法を習得する。	
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	現代政治の諸相		実際の新聞報道など毎回実践に即したテーマを取り上げ、新聞報道の役割、ジャーナリズムについての理解を深め、新聞、テレビを中心としたメディアの特性を学びながら、それを取り巻く現状や課題を認識し、ジャーナリズムに関する知識を習得する。水俣病やハンセン病、免田事件、赤ちゃんポストといった熊本における普遍的なテーマを取り上げ、地域課題と地方紙の役割について多角的に考察し、ネットメディアが台頭する中で、ローカルジャーナリズムの意義について考える。	
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	最新線の社会文化研究		対象に応じた調査手法の選び方と調査設計の手法についての基礎知識および技術を身につける。主に民俗学で研究対象とされる「生業」を元に授業を行い、具体的な遊び方についても紹介し、様々な自然と触れあうための意欲と知識を養う。偽史や都市伝説、陰謀論などといった社会の中に流通する「物語(ナラティブ)」に関する研究の最新線を紹介し、最新の研究動向を概説し、現代社会における物語(ナラティブ)の位置づけについて考える。世界遺産の概要とそれをめぐる現状を概観し、世界遺産と現代社会の関係を理解する。熊本の伝説や祭祀に関する知見を増やし、身近な素材から学問的課題を発見することを通じて、より広範な現代社会の諸課題への理解を深める。自然について多様な角度から見る力を養い、人との関わりからみえてくる自然とはどのようなものかを理解する。ユーラシアからアフリカまで広がる世界の牧畜の歴史と現状を概観することで、人間と動物と土地とのつながりを理解する。メディアと社会の関係について考えるための基礎的な知識や考え方を身につける。	
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	現代社会の解説		<水俣病>事件の歴史性と現代性の解説を試み、<水俣病>事件の現代的な意義について多角的な視点で考えられるようになる。地域社会学の基礎的な知識や社会学の考え方(理論、方法、概念など)について講義し、それらの知識や概念を習得し、社会学的な観点から現代社会における課題について考察する力を養う。社会調査について、基本的な用語と考え方を学ぶ。わたしたちがいまどのような社会に生きているのかを、近現代における国民国家の形成やグローバル化が手掛かりに理解し、考える。	
教養教育科目	教養科目	リベラルアーツ科目	自然と人間の地理学		地域の諸問題について、特に熊本県や九州の事例を交え、地理学的観点から現状と課題を考察する。地理学的ものの見方と考え方およびアプローチ方法を理解する。現代社会が抱える環境問題や社会問題が起こる背景や要因を地理的に理解する。人間生活と自然環境との関係を多角的に見る力を養う。熊本が7年前に地震被災地となったことをうけて、地震等の自然災害の被災地が、どのように復旧・復興したのかしなかったのかを知ることにより、地震被災地としての熊本の将来を考えることができるようになる。	
教養教育科目	教養科目	現代教養科目	数学と文化		高等学校を用いて理解できる応用数学の様々なトピック(折り紙、2進数、アルゴリズム、素数、ゲーム、グラフ、統計)を扱い、高等学校までに学習した数学を基礎として、応用数学に関する様々な話題を取り上げ、現代数学を理解する。高等学校までに学習した数学を基礎として、主に代数学に関する話題を取り上げ、現代数学を理解する。	

教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	物理学の世界	広い視野をもって社会の急激な変化や諸科学の高度化に対応できるように、特に材料工学の視点から幅広く深い教養を身につける。また国際的な活躍ができる人材の育成を目的として、材料工学分野を拠点とする世界が直面する課題とその解決方法を考える。地球以外に生命が存在するかどうかを科学的に考察する力を身につけ、必要な自然科学の広い知識を身につける。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	暮らしと化学	生体および環境のさまざまな事象について化学的に考えることができる基礎的な知識を身につける。身の回りに存在する化学的な現象や事項について、あらためて目を向け、その原理や概要を理解する。化学的な理解を深めることで、不意の事故の防止や、有用な現象の利用を拡大することが可能となる。高校の教科書にも載っているような基本的な有機化合物について、その“かたち”を決める原理を考察できるようになる。さらに、便利で豊かな生活が様々な有機化合物によって支えられていることを実感できるようになる。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	化学と環境	大気や歴史や大気に関連する環境問題を主に化学の視点より講義し、大気や空気について理解を深める。大気の構成や成分を把握し、大気に関連する環境問題の現象や影響を化学的な視点で理解する。複雑な化学反応で維持されている人体への化学物質によるポジティブな影響やネガティブな影響についてメカニズムを理解する。また、化学の目で健康をいかにとらえているかを理解する。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	最先端の生命科学	植物の形づくりと環境応答、細胞の構造と振舞いについて学習し、最先端の植物科学研究を理解するための素地をつくる。バイオリソースの重要性を理解し、実験動物及び動物実験に関する正しい知識を身につける。ヒト免疫不全ウイルスHIV-1等の感染症について、ウイルス、造血および免疫の観点から学ぶ。遺伝の基本的な仕組みの学習を通じて、栽培化・家畜化・育種等の生物と人類の多面的な関わり方の背景となるメカニズムを理解する。進化の基本を学び、節足動物の一群（ヤスデ類）で見られる擬態現象の理解を通して、生物多様性創出の基本概念を理解することを目的とする。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	地球環境科学の最前線	海洋学の真髄である「海という視点」から分野横断的に海洋現象や海洋問題を解説し、これまでほとんど教わっていない“海洋学的知識”を食わず嫌いの領域から脱却してもらい、「海の理解者」としての素養を身につける。地球のシステムや古環境の変遷、生物の進化に関連する現象について理解する。熊本県下に特徴的な地質や地形に関連する現象について理解する。私たちの身のまわりに日常起こる現象に大気と水がどのように関わっているのかを解説し、地球が「大気圏」「水圏」「岩石圏」「生物圏」から構成される1つの「システム」であることを認識し、それらの構成圏の間にどのような相互作用が働いているかを、主に気象現象を通じて理解する。大気の組成や循環の変化を原因とするグローバルな環境問題がどのようなメカニズムによって引き起こされているかを理解する。火山の研究、観測、教育、アウトリーチ、防災などに関わる専門家の講義を通して、火山に関するさまざまなテーマを学ぶ。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	地域づくりと科学技術	人々の「暮らし」を切り口として国内外の住宅を様々な視点から分析し、「よい住宅・インテリアとは何か」を理解する。地域や都市の基盤となる社会インフラの概要とその防災減災技術、まちづくりの理論と実践方法等について、自分の言葉で説明できるようになる。世界史や日本史に登場する都市を取り上げ、その都市の成り立ちから現在の姿を読み解くことで、その都市がどのような都市計画（自然発生的な成立を含む）によって形成されたのかを理解し、現在の都市計画の考え方や手法を説明できるようになる。歴史的な建築物や、それらが集まって出来上がった街並みや都市、石工や建築家に関するテーマを取り上げて、建築や都市と、社会や技術との関係を論じ、大学で学ぶことは何かを理解する。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	ものづくりの科学と技術	エネルギー源の種類と特徴や社会・生活における利用形態について自主的に学習し、自分なりの考え方を育てようになる。またクラス内での意見交換を通して、主張の方法と他人の意見を聞く柔軟性を身につける。科学技術と暮らしにかかわるいくつかのテーマについて考え、科学技術が暮らしとどのようにかかわっているのかを考え認識を深める。資源循環型社会を実現するためにはどのようにすればよいかについて、考える機会を持つ。資源やエネルギーの諸問題を解決するためにどのような科学的アプローチや取り組みが行われているかを学び、主に今後の製品化や環境負荷低減に貢献するナノ材料を化学的な観点から理解する。食品、医薬品、プラスチックなどを題材に暮らしの中にある化学物質とそれらを構成する元素について講義し、化学的見地からもものごとを考える力をつける。社会の急激な変化や諸科学の高度化に対応し得るよう、広い視野に立ち、幅広く深い教養を身につけられるようになること、および国際的な活躍ができる人材になれるよう、今日の世界が直面する課題を理解できるようになる。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	暮らしと情報・通信技術	デジタル処理の原理を学び情報のコミュニケーションや人間環境のモニタリングやセンシングの原理と応用について講義し、現代社会の基盤を構成している情報・通信技術にかかわる知識や技術を学び、科学的な見方・考え方の素養を身につける。現代社会の基盤を構成している情報・通信技術に関わる知識や技術の一端を学び、これら技術の重要性を知る。現代社会の基盤を構成している電気エネルギーの発生や電気エネルギーの効率的利用や応用に関する知識や技術について知識と理解を深めます。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	健康の科学	人間の健康に影響を与える要因にはどのようなものがあるか多角的な視点から理解し、それらへの対処能力を養うために必要な知識やスキルを身につけることができるよう教授し、大学生生活のみならず将来の生活も含めて具体的にイメージしてもらい、こころから健康とヘルスケアについて理解し、自身の日常生活に生かすことができるようになる。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	病気の医科学	解剖学、病理学、生理学、脳科学、免疫学をそれぞれ専門とする教員が、医学を専門としない幅広い分野の学生を対象として、各回の授業テーマにあげた内容について基礎から解説し、誰にとっても大きな関心事である健康と病気について、氾濫する情報の中で根拠のない誤ったものに惑わされず、正しい判断ができるための科学的な知識と考え方を身につける。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	臨床医学の最前線	熊本大学病院における医療の最前線で活躍している各分野の専門家が、がん、生活習慣病、救急疾患、小児疾患などそれぞれの分野について最新の知識を提供し、がん、最新の医学の進歩について広く学ぶ。がん、生活習慣病、救急疾患、精神疾患など多岐にわたる病態を対象とし、研究や診断・治療法の進歩を紹介し、本科目を受講することで、最先端の医学研究や医療の概要を理解する。

教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	現代社会と医学	第一線の医療を担う医師・歯科医師及び熊本県庁の行政担当者を招いて、こうした地域医療の諸活動と問題点を講義し、それにより我が国の医療・保健・福祉について、医療従事者の視点や行政担当者の視点から概観し多面的に理解するとともに、将来医療や行政に携わる学生にとってのキャリア教育にもなりうる。一方、医療や福祉のことを広く身近な問題として捉えてもらえる内容としている。これを踏まえ、この授業の目的は、日本における医療制度（特に地域医療制度）を取り上げ、その諸活動と問題点を学ぶ。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	心身の健康と看護	現代社会における心身の健康について理解し、自らを振り返り、心身の健康を増進させる方策について考察する。我が国の疾病構造の変化ならびに生活と健康について理解し、自分や家族、地域の人々が健康的な生活を送るための知識や実践力を身につける。認知症や生活習慣病について学ぶことにより、超高齢化社会がもたらしている影響・課題について理解し、そのような社会状況のなかで、健康寿命を延長する具体的な取り組みや誰もが安心して暮らせるまちづくりのために現在の自分たちに何が出来るかを考察、実践することができる。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	医療における理工学	放射線の医学・医療利用に関して社会へ対する理工学的貢献を理解することを目的として、放射線に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、放射線利用のひとつである医学・医療利用の原理および科学技術について学ぶ。本授業を通じて、放射線の基礎知識の修得、放射線の医学・医療利用についての理解、放射線利用とリスクに対する考え方の理解を深める。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	現代の医学検査	私たちが社会活動を営むうえで、「健康」は基礎となっている。しかし、私たちが暮らす「環境」や「感染症」などに代表される、健康を脅かす様々なリスクが存在することは事実である。本講義では、人類が直面してきた感染症について学ぶとともに、ワクチン、抗菌薬などについて学ぶことで、感染症リスクに対する対処法を学ぶ。また、世界的視点で感染症の流行状況を学ぶことで、健康格差について学ぶ。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	現代医療と生命科学	古くて新しい糖の生物学的役割や糖（鎖）を利用した工業製品や医薬品の開発を理解する。また、プレゼンテーションを通じて、自己表現力を高める。医学以外の分野を専門とする学部学生が、現代医学で不可欠といえる免疫の基本的考え方について説明できるようにする。免疫学の基礎を学び、生体内で起こる免疫の仕組みを理解する。免疫疾患の発症機序や臨床所見を理解する。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	薬科学入門	生体機能物質の化学について、様々な視点から講義し、生体機能物質とは何か、また、なぜそれが生体に機能するかを理解し、それを他人に説明できるようにする。薬の科学について、様々な視点から分かりやすく講義し、薬にはいかなる種類があり、どのように探索・設計・最適化され、いかに効力を発揮するのかについて、それぞれの立場から深く理解し、その概要を説明できるようにする。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	現代社会と薬学	現代社会における人々（集団）の健康と疾病の現状およびその影響要因（遺伝要因、生活要因、環境要因）を把握し、その予防・治療に関する基本的知識を深めるために、健康と疾病の概念、疾病の予防（疾病の予防の定義、感染症とその予防、生活習慣病とその予防）、疾病の治療、伝統・伝承医療とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進などの内容を専門外の受講者にもわかるような平易な表現で解説する。現代社会を生き抜くためのリテラシーとして、薬と正しく付き合いその効果を生活に適切に活かしていくために、薬に対する正しい理解を深め、薬の使用に必要な薬学の概念・基礎知識を習得する。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	現代教育について考える	障害のある人を包摂する、インクルージョンをめざす生活や教育のあり方について考える。家庭科の歴史、学校教育の選抜機能、家族の変遷等を考察しながら、各自のライフスタイルの確立に役立てる。日常生活を安心して送る拠点として自分に合ったより良い住環境を選択できる実践的な力を養う。自然と人間の共生について興味・関心を高め、自然環境と教育に関する現代的課題を見据えて未来の展望をもつことができる。論理・集合、代数、幾何、解析、応用数学等の中から、いくつかの数学的な話題に触れ、数学的に考えることを学ぶ。持続可能なライフスタイルの構築において、私たちが毎日の生活の中で抱えている問題を明らかにし、問題の解決方法を考え、解決に向けて実践する力を身につける。これまで目撃されてきた家族や子育て・教育のあり方について問い直すとともに、現代の親や子どもと教育の問題について理解する。日本本土とは異なる社会制度、公的社会教育が脆弱ななかで、沖縄の住民はどのように自治的に自らの生活と文化を育み継承してきたのか、社会教育の枠組みから考察する。教育における対話的コミュニケーションの重要性を中心に、社会的構成主義の学習観に基づいた学びの在り方について理解する。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	心理学の探求	このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて、心理学領域の代表的な基礎理論と研究成果に基づいて解説し、心理学領域の代表的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることで、人間の行動を支える心の働きを科学的にとらえられるようになる。心理学的な考え方や、心や行動の諸現象について学ぶことで、人の心や行動を客観的に理解できるようにする。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	芸術への招待	4分野実技（絵画 工芸 声楽）の授業として、1分野ごとの芸術実技の基礎的技術を学び、作り出す芸術実技を体感する。内容は初歩的なことであるが、芸術（音・美）が繰り広げる「魅力を生み出す力」を体験し、芸術を深く理解する。音楽、美術を通じて現代文化について学ぶ。また演習等で実践的活動を行えるようにする。本授業を通じて、芸術実技について魅力を知り、芸術への理解を高度に深めること、各芸術分野（絵画 工芸 声楽）について基礎的技術を学び、芸術に存する「生み出す力」を体感し、芸術実技を高度に身に付け、高度な表現力を培い教養とすることを旨とする。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	現代と言語	日本語学という学問の視点から「いろいろな日本語」の姿を観察し、大いに楽しむ方法を紹介するとともに、私たちは自分（たち）のことばとどのように向き合っていけばいいのかを考える。日本各地でどのようなことばが使用されているかがまとめられている「言語地図」を解釈することを通して、日本語のバリエーションや歴史について理解し、身の回りのことばをバリエーションやことばの歴史という観点から考察できるようにする。
教養教育科目目	教養科目目	現代教養科目目	現代と文学	文学テキストの読みと国語教科書・国語の授業という枠組みとの関係性について考える。日本古典文学が近現代の文学や海外に与えた影響について、時代や国境を越えて広い視野で考え、理解する。日本漢詩を読み、漢詩の詩型や押韻、基本的な知識を身につけた上で、漢詩を鑑賞する力を養う。異なる言語、文化の視点から見ることにより、日本の文学、文化への理解を深めるとともに、外国の文学、文化について学ぶ。

教養教育科目	教養科目	現代教養科目	現代世界の形成と課題		薬害肝炎被害者、水俣病患者支援者、在日コリアンの方のお話しを参考に、日本社会の人権状況を正確に理解し、認識を深める。全体を通じて、人権や性の問題に真摯に向き合う基本的姿勢を身につける。国内最大のハンセン病療養所である菊池恵楓園を退所された方、また、ハンセン病問題に関わってきた様々な専門家（医師・研究者・新聞記者・弁護士）に、それぞれの立場から講義をしていただき、ハンセン病問題の歴史を踏まえて、正しい認識を構築する。核兵器をめぐる歴史的事実を知った上で、20世紀の歴史を語る事が出来るようになる。
教養教育科目	教養科目	現代教養科目	最先端の法学		平成17年に制定された会社法は、現在の我が国にもっとも大きな影響を及ぼす経済主体である会社に関する法規範であり、また会社以外の企業主体に関する法規範にも大きく影響を与えている。本講義では、会社法をはじめとする企業組織に関する法規範やコーポレートガバナンス・コードなどを紹介するとともに、企業組織に関する最新の法的問題を紹介し、各自にその問題について自ら考える機会を持ってもらう。企業活動についての理解を深めてもらうとともに、企業組織に関する最新の法規制についても理解を深めてもらう。
教養教育科目	教養科目	現代教養科目	現代社会と経済		経済学の基本的な理論とその応用を学習し、経済学の基本的な考え方ができるようにする。日常生活に焦点を合わせ、その視点から、個人の意思決定から社会問題に至るさまざまな問題について考え、価格、コスト、嗜好（選好）、収益、損失、リスク、インセンティブ、情報の対称性、ゲーム的状況などのキーワードをもとに現代社会を読み解く。経営学のうち、マネジメント、マーケティング、経営戦略論の基礎を学び、どのような学説があり、それはどのように活かされるのかを学生自身の言葉で説明できるようにする。韓国の経済発展をめぐる問題と現在直面している経済的社会的課題を取り上げ、それぞれの問題の概要や背景にある要因を多面的に理解し、自分の言葉で説得的に説明できるようにする。
教養教育科目	教養科目	現代教養科目	現代の政治		我々にとって最も身近な政府である自治体、とりわけ自治体政治に焦点を当て、その現状と課題について考察する。現代世界の特徴について理解するとともに、様々な政治現象を自分の力で読み解くことができるようになる。近代日本の戦争を通じて、争点をめぐる外交交渉が武力行使に転換する理由、作戦計画における目的設定と実施過程における問題点、戦争を終結させる際にどのような困難があったのかを説明できるようにする。
教養教育科目	教養科目	現代教養科目	学際科目		九州内の国立大学が協力し合い、九州各県・各地域の特色を活かして、それぞれの魅力について多角的に学修する。新聞記者の指導で文章作成を体験する過程で、メディアに関する理解を深め、情報を読み解く力（メディアリテラシー）、文章力などを高めていく。授業で多様なニュースに触れることで、社会の動きや課題についての認識も広げる。日本の財政、金融及び地域経済の現状等を知ってもらうとともに、税制や税関の役割や仕組み、さらには金融取引等の基礎知識等について理解を深める。将来の日本経済を担っていく学生に生きた経済や、より実践的な金融の知識を身につける。実際のビジネスの世界において発生している事案を専門士業（弁護士、公認会計士及び不動産鑑定士）の観点から整理することで、事案の本質を分析する目を養うことのみならず、ディベートを通じて網羅性等を担保した分析能力を習得する。
教養教育科目	教養科目	Multidisciplinary Studies	Introduction to Science and Technology I		(英文) To understand the basic information on renewable energy pertinent to biomass. To understand the basic information on renewable energy or clean energy. To learn prominent scientists in multidisciplinary fields of science and technology, and how their works are shaping our future. To learn the fundamentals and terminologies in entrepreneurship, with reviews and analyses of some successful science-related businesses. The students learn coastal sustainability issues in various disciplines such as history, political, social/cultural, ethical and science and technology taking into consideration possible contribution to UN Sustainable Development Goals (SDGs) and a carbon neutral society. This course will explore information and communications technologies (ICTs) and their multidisciplinary applications to the social and natural sciences. Students will understand basic biological mechanisms, so that they will better understand environmental risks posed by pollutants including endocrine disrupting chemicals (EDCs). (和訳) バイオマスに関連する再生可能エネルギーの基礎知識を理解する。再生可能エネルギーやクリーンエネルギーの基礎知識を理解する。起業家精神の基礎と用語を学び、成功した科学関連ビジネスのレビューと分析を行う。国連の持続可能な開発目標（SDG）とカーボンニュートラルな社会への貢献の可能性を考慮して、歴史、政治、社会/文化、倫理、科学技術などのさまざまな分野で沿岸の持続可能性の問題を学ぶ。情報とコミュニケーションを探求する。学生は基本的な生物学的メカニズムを理解し、内分泌攪乱化学物質（EDC）を含む汚染物質によってもたらされる環境リスクをよりよく理解できるようにする。
教養教育科目	教養科目	Multidisciplinary Studies	Introduction to Science and Technology II		(英文) To learn the fundamentals of separation processes common in the industries and environment. The students will also learn to apply basic knowledge of chemistry, physics and mathematics to understanding common separation processes while actively discussing with classmates. To learn the fundamentals of chemical reaction processes common in the industries and environment. The students will learn from this multidisciplinary course the fundamentals of biomass utilization to gain broader global perspectives of this exciting field. (和訳) 業界や環境で一般的な分離プロセスの基礎を学ぶ。また、クラスメートと積極的に議論しながら、一般的な分離プロセスを理解するために化学、物理学、数学の基礎知識を適用することも学ぶ。産業や環境に共通する化学反応過程の基礎を学ぶ。この学際的なコースからバイオマス利用の基礎を学び、より広いグローバルな視点を得る。

教養教育科目	教養科目	Multidisciplinary Studies	Socio-Cultural Studies	<p>(英文) This class will cover history, social/cultural issues, ethics and science of humanitarian efforts. Students learn terminologies and concepts related to humanitarian issues, which can be adapted to subsequent courses in life and natural science as well as in the practice of the profession after graduation. Individual and large-scale projects to promote human welfare in areas afflicted by war, famine, natural disasters or diseases have a long and rich history and form the basis of many contemporary political discussions. We will look at humanitarian issues from different points of view including historical, scientific and anthropological approaches.</p> <p>(和訳) この授業では、人道的活動の歴史、社会的／文化的問題、倫理、科学について学ぶ。学生は人道問題に関連する用語や概念を学ぶが、これはその後の生命科学や自然科学の科目や、卒業後の専門職の実践に適用することができる。戦争、飢饉、自然災害、疾病に苦しむ地域において、人類の福祉を促進するための個人的または大規模なプロジェクトには、長く豊かな歴史があり、現代の多くの政治的議論の基礎となっている。歴史的、科学的、人類的アプローチを含む様々な視点から人道の問題を考察する。</p>
教養教育科目	教養科目	Multidisciplinary Studies	World History	<p>(英文) The course is designed to make students know more about European history and culture focusing on language and its role in the development of national identity. The goal of this course is to deepen cross-cultural understanding and to build bridges between past and present. The goal of this course is to provide profound knowledge about European geography and cultural history.</p> <p>(和訳) 学生が言語と国民的アイデンティティの発達におけるその役割に焦点を当てたヨーロッパの歴史と文化について知る。異文化理解を深め、過去と現在の架け橋を築く。ヨーロッパの地理と文化史に関する深い知識を提供する。</p>
教養教育科目	教養科目	Multidisciplinary Studies	Area Studies	<p>(英文) We will study the impact of modernization on Japanese society and the challenges of leadership during the first half of the Meiji period. We will have a comprehensive look at the education of the future elite at the Fifth High School also addressing the symbolism of the school's organization and architecture. Taking the Fifth High School as an example, we pick up several aspects of Meiji Period elite training and discuss the social and historical background.</p> <p>(和訳) 近代化が日本社会に与えた影響と、明治時代前半におけるリーダーシップの課題について学びます。第五高等学校における将来のエリート教育について、その組織や建築の象徴性にも触れながら包括的に考察する。第五高等学校を例に、明治期のエリート教育のいくつかの側面を取り上げ、その社会的・歴史的背景について議論する。</p>
教養教育科目	教養科目	Multidisciplinary Studies	Comprehensive English Communication	<p>(英文) Each session, we will look closely at the various components necessary for successful presentations made in English. Students will work in pairs to prepare and deliver a 7 minute presentation to the class. Through completion of this course, students will: • Understand the components and structure necessary for successful presentations • Become adept at accessible, intuitive, and efficient slide design • Become proficient in gathering research data • Improve English communication and presentation skills</p> <p>(和訳) 毎回、英語でのプレゼンテーションを成功させるために必要な様々な構成要素について詳しく見ていく。生徒は2人1組で7分間のプレゼンテーションを準備し、クラスで発表する。 本科目を修了することで、以下のことが習得できる： ・プレゼンテーションを成功させるために必要な構成要素と構造を理解する ・分かりやすく、直感的で、効率的なスライドデザインに習熟する ・リサーチデータの収集に習熟する ・英語でのコミュニケーションとプレゼンテーションのスキルを向上させる</p>
教養教育科目	教養科目	Multidisciplinary Studies	Global Career Development	<p>(英文) Gaining insights and perspectives through exchanging with Kumamoto University faculty members with global career experience. The goal of this course is to offer valuable and rare opportunities to interact with local based experts whose experiences and skills will broaden the scope for students' career options. The goal is to improve analytic and communication skills, in addition to the basic understanding of business operations.</p> <p>(和訳) グローバルなキャリアを積んだ熊本大学の教職員との交流を通じて洞察と視点を得る。経験とスキルが学生のキャリアの選択肢の範囲を広げる地元の専門家と交流する貴重な機会を提供する。事業運営の基本的な理解に加えて、分析とコミュニケーションのスキルを向上させる。</p>

教養教育科目	教養科目	キャリア科目	キャリア科目		現代の課題の1つとされる男女共同参画社会を実現するために、女性のライフコースの特性を理解し、女性のキャリア形成のあり方について考えるとともに、仕事と生活の両面から、自分の将来の生活設計を立案できるように。国内外で実施されているボランティア活動を事例に支援者（ボランティア）の役割とマネジメントについて理解し、支援活動における基礎知識を身につける。ベンチャー企業の経営者、事業再生を経験した経営者、地域で活躍する中小企業や地方創生に取り組む企業の経営者等の生の声を聴くことで、ベンチャーマインド、経営マインドとは何かを学ぶ。大学での学び、生活と仕事・職業の関係について理解し、主体的な大学生活を過ごすための基礎知識を習得する。ダイバーシティ・インクルージョンの基本的知識を習得し、社会の担い手としての問題意識を持つ。	
教養教育科目	教養科目	開放科目	開放科目		本来学部の特長科目として開講されている科目のうち、内容が教養教育にふさわしく、開講学部以外の学生が履修できる科目として特に指定しているもの。（例：聴覚障害児教育、医療倫理、プログラミング演習、国際関係論、地域防災等）	
教養教育科目	教養科目	体育・スポーツ科学a	体育・スポーツ科学a		スポーツの実践とスポーツ文化の理解を深めるとともに、スポーツの持つ魅力を理解し生涯スポーツへの基礎作りを行う。運動・スポーツを行うにあたって最低限必要な基礎知識や身体の手入れの方法などを習得し、身体トレーニングを行うことを通じて、将来にわたって体力・健康づくりができるようになる。健康の保持増進のために、運動習慣の大切さを理解するとともに日常生活において実践する態度を身につける。	
教養教育科目	教養科目	体育・スポーツ科学b	体育・スポーツ科学b		実技の技能を高めると同時に、グループでの学習効果を生む展開を学ぶ。また、講義では生活習慣病と日常生活活動を関連させ、今後の生活に生かせる知識と実践能力を修得する。医学的検査の意義も学び、ヒトの生体機能を動的および静的側面から考えられるようになる。1) スポーツに関する理解を深める。2) 技術学習の計画を立案し、実践できるようにする。3) 健康の維持増進に関する理解を深める。4) 予防医学としての運動療法や処方箋を習得する。5) 班内で協力し合い、技術や能力の向上、および課題探求能力を養う。ことを目標とする。	
教養教育科目	教養科目	日本国憲法科	暮らしの中の憲法		SNSなどで気軽に情報発信できるようになった現代社会では、多くの有益な情報と共に不正確な情報も氾濫するようになっている。憲法問題についても例外ではなく、日本国憲法の基本的な原理を理解し、現代社会の諸問題について憲法の基本的な知識を踏まえながら論理的に考えることができるようになることを目的とする。生活の中での具体的な問題を念頭に置きながら、判例、学説の検討を中心に、日本国憲法の意義、諸原理を学ぶ。	
専門教育科目	専門科目	教育に関する基礎的科目等	教育原理A（理念及び思想）	○	そもそも教育とは何か、学校は何のためにあるのか、どのような教育であれば「よい」と言えるのか、教師は何のために存在し、どうすれば「よい」と言えるのか、本授業では、このような原理的、本質的問いに答え抜くことを通じて、受講者の皆さんの教育観を数段深めることに寄与する。教育の古典的名著から、現代の最先端の教育実践まで、大量の情報のシャワーを浴びてもらいながら、自分がこれまでに受けてきた、当たり前だと思っていた学校観、教育観、授業観、子ども観等を見つめ直し、さらに鍛えていく。	
専門教育科目	専門科目	教育的科目に基礎的科目等	教育原理B（歴史・制度）	○	教育の思想と実践の変化を、日本と西洋諸国の教育の歴史に位置づけて考える。「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識を身につけ、現在の学校教育の原理との関わりを理解することを目的とし、西洋諸国と日本における、古代から現代に至るまでの教育の理念や思想、制度を包括的に取り上げながら、教育に関する原理の歴史的変遷について講義を行う。	
専門教育科目	専門科目	教育に関する基礎的科目等	教職入門	○	教職の意義及び教育の役割、教員の職務内容、教員の労働条件と研修に関する基礎知識・理解を身につけ、自分の理想とする教員像を明確にする。教職の意義や教員の職務内容、労働条件や研修について基礎的な内容を学び、全体像をつかむ。また、学校教育を巡る近年の状況を理解しながらこれから求められる教員の資質・能力について考え、自分の理想の教師像を確立して今後の教職科目の履修に活かせるようにする。	
専門教育科目	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	現代の教育と社会A	○	本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の3点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。	
専門教育科目	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	現代の教育と社会B	○	本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の3点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。	
専門教育科目	専門科目	教育的科目に基礎的科目等	教育心理学A（学習）	○	幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎知識を身につけ、子どもへの支援の基礎となる心理学的な理解や考え方を学ぶ。子どもの行動のもつ意味を読み解くことができる力を養うために必要な心理学的知識や考え方を概説する。	

専門教育科目	専門科目	学的教育科目に基礎	教育心理学B（発達）	○	幼児、児童及び生徒の発達段階に応じた特徴を理解し、学習や学校生活における適切な支援を考えることができるようになることを目標に、子どもの発達の特徴を紹介し、環境要因としての教師の役割・関わり方について考える。
専門教育科目	専門科目	学的教育科目に基礎	特別支援教育の基礎	○	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解する。本授業では、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども）の学習上または生活上の困難を理解するために必要な、各種の障害の特性及び心身の発達、そして障害のある子どもを支える制度を概説する。
専門教育科目	専門科目	学的教育科目に基礎	特別支援教育の展開	○	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解する。本授業では、「特別支援教育の基礎」を受け、特に通常の学級における特別支援教育の展開を中心に、発達障害や通級による指導の実際、また通常学級におけるインクルーシブな授業・学級づくりについて概説する。
専門教育科目	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育課程論	○	学校で何を、いつ、どのような順番で、どうやって教えるのか、という問いに取り組む中で、教育課程は編成される。また教育課程は、学習指導要領や学習指導要領解説だけでなく地域の特色や現状、社会のニーズなども踏まえて、編成される。しかし、これらすべてに対応して教育課程を編成しようとする、授業時数に対する内容の量が過剰（詰め込み過ぎ）になったり特定の教科が優先（他の教科等の活動が軽視）されたりする懸念がある。そのため、教師も児童生徒も疲弊しないように、教育課程を柔軟に編成することが求められる。そこで本科目では教育課程の編成の方法を学修する。特に、教育課程の編成の基本原則や観点、組織として教育課程を編成するための学校の在り方や意義を学修する。最終的に、実在する学校を1校選び、その学校の教育課程の編成の案を提示できるようにすることを旨とする。
専門教育科目	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	道徳教育の理論	○	本授業科目は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則の定める「道徳の理論及び指導法」にあたり、学習指導要領に掲げる事項に即した内容について取り扱う。主な内容については以下の通りである。まず、道徳とは何かという基本的な問題について、印欧語族や日本語の「道徳」の語源に基づき、その意味や歴史の変遷を考察する。また、倫理学、心理学、社会学などの学問分野における道徳の捉え方について概説し、多角的な視点から道徳の本質に迫る。道徳教育の歴史については、日本の戦前と戦後の道徳教育を比較しつつ、その問題点を論じる。また現代的な課題については、生命倫理やSDGs、社会参画や情報化への対応等を検討する。道徳性の発達理論については、他律から自律へと至る過程について理解するため、ピアジェやフロイト等、種々の学説を取りあげる。道徳教育の目標・内容については、「よりよく生きる」ことについて中心に論じるとともに、道徳の内容項目における重要な概念を考究する。道徳教育の全体計画および道徳科の年間指導計画については、熊本市の事例をもとに、その内容と留意点を考察する。道徳科の評価については、基本的な考え方、評価の観点について検討する。
専門教育科目	専門科目	学的教育科目に基礎	道徳教育の実践	○	本授業は、道徳・道徳教育に関する基礎的理解を踏まえたうえで、多様な道徳授業論・指導法を学習し、道徳の学びとは何かという問いを軸にしながら道徳の実践方法の幅広さを学ぶ。これらの知識理解の基、道徳授業の指導案作成やグループワーク、ピアレビューなどの協働的な学びを通して、授業計画を吟味し改善する多様な視点を得る。
専門教育科目	専門科目	学的教育科目に基礎	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	○	特別活動の指導法について講義・実践する。学習指導要領に記載されている学級活動・児童生徒会活動・学校行事・クラブ活動等について割り当てをし、各事項ごとのミッションを課すので、それをこなしてもらおう。総合的な学習の時間の指導法についての講義・実践も同様とする。
専門教育科目	専門科目	学的教育科目に基礎	教育方法学	○	本授業では、教育方法として一般的に想起される一斉授業の形態を、歴史、現代の動向、教育目的の変化、学習観、学び合い、学習環境デザインといった視点から批判的俯瞰的に捉え直し、教育方法の多様なあり方を学習する。
専門教育科目	専門科目	学的教育科目に基礎	教育とICT活用	○	一斉講義形式ではなく、情報通信機器の実技を伴う演習を通したり、学校現場の実態を理解したりすることによって、情報通信技術を効果的に活用した実践的な指導力を高める。また、授業ごとにデジタル・リフレクションシートを記入できるようにして形成的に評価し、学生自らが「主体的・対話的で深い学び」の実践を体験できるようにする。
専門教育科目	専門科目	教育に関する基礎的	生徒指導と学校カウンセリング	○	(1) 生徒指導の意義と原理と課題を理解する。 (2) 学校カウンセリングの方法を含む生徒指導の多彩な進め方を理解する。 (3) 生徒指導上の個別の課題とそれぞれの対応について理解する。 (4) 組織的な対応、特に連携を重視した取り組みのあり方を理解する。 (5) 保護者理解と保護者連携について理解する。
専門教育科目	専門科目	学的教育科目に基礎	教育相談の理論及び方法	○	子どもを取り巻く状況（学校・家庭・社会）や、学校教育の領域でなされている活動がどのように心理的健康と関連するかを概観し、様々な心理的課題を抱えている児童や生徒に対して、学校内で教師が実行すべき教育相談（心理教育法やカウンセリング）の基本的知識と技術を提供します。それらを知的にも体験的にも学習する。
専門教育科目	専門科目	学的教育科目に基礎	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	○	児童生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長していけるよう、進路指導は教師にとって重要な教育活動です。また、それを包含するキャリア教育は学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育むことを目的としている。これらのことについて、学生自身も教師を目指す立場として主体的に学んでいく。

専門教育科目	専門科目	教育の基礎的科目等	事前・事後指導		事前指導：1年次においては、4年間の実習の流れを理解し、教育現場で学ぶときの身だしなみや話の仕方など教師としての基本的な態度を習得する。2年次においては、1年次の学びを再確認し、3年次の教育実習に臨むための準備段階として、教育現場に赴き、学習者と教師の相互の関わりを観察し、教育現場を体験的に理解する。3年次、4年次においては教育実習に臨む直前の準備と、各自の課題を再確認する。事後指導：教育実習における学びを整理・省察し、教職を目指すうえでの今後の課題と学びの方策を考える。		
専門教育科目	専門科目	教育的理解の基礎的科目等	中等教育実習 I		附属中学校において、附属学校の教員の指導を受けながら、授業構想・実践、学級経営、生徒理解などについて学び、中学校教師の職務に求められる実践的指導力の基礎を修得する。また、教育の基礎的理解や教科及び教科の指導法で学習した理論を実践に結び付け、理論の活用を体験的に学ぶ。さらに教育実践における自分の体験を振り返り、中等教育実習 II で取り組む課題を見出す。		
専門教育科目	専門科目	教育の基礎的科目等	中等教育実習 II		公立の協力中学校において、中等教育実習 I で見出した課題に取り組むとともに、チーム学校の一員として授業構想・実践、学級経営、児童理解などについて学び、中学校教員としての資質・能力の向上を図る。特に学習の反応や実態からの学びを重視する。また、中等教育実習 I での学びを基礎として、理論と実践の往還を深める。さらに教育実習中の学びのプロセスを省察し、自分自身の長所や課題を明らかにし、教職を目指すための自己学習に発展させる。		
専門教育科目	専門科目	教育の基礎的科目等	養護実習	○	公立の協力学校において、チーム学校の一員として授業構想・実践、保健室経営、学習者理解などについて学び、養護教員としての資質・能力の向上を図る。特に学習者の実態からの学びを重視する。また、実習中における実践からの学びを大学における理論に関する学びに結び付け、理論と実践の往還を深める。さらに教育実習中の学びのプロセスを省察し、自分自身の長所や課題を明らかにし、教職を目指すための自己学習に発展させる。		
専門教育科目	専門科目	教育の基礎的科目等	教職実践演習(養)	○	養護教諭としての専門的力量形成を図るために、4年間で学んだ理論と実践の統合を図り、実践的指導力を育成する。教員として求められる以下の4つの事項を踏まえ、4年間で学んだ理論と実践の統合を図り、実践的指導力を有する教員としての資質を確認する。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ④教科・保育内容等の指導力に関する事項		
専門教育科目	専門科目	教育の基礎的科目等	教職実践演習(幼・小・中・高)		教師としての専門的力量形成を図るために、4年間で学んだ理論と実践の統合を図り、実践的指導力を育成する。教員として求められる以下の4つの事項を踏まえ、4年間で学んだ理論と実践の統合を図り、実践的指導力を有する教員としての資質を確認する。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ④教科・保育内容等の指導力に関する事項		
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	基礎医科学	解剖学	○	養護教諭として必要な病気についての知識を学ぶ前に、正常では人体はどのように成り立ち、機能しているのかについて学ぶ事を目的とする。実際の講義では、各器官系の相互関係に触れながら講義を進めて行く。各臓器の構造や相互の関係を系統的に学習し、「ヒトのからだ」を理解する。これにより病気の際に体内でどのようなことがおこっているか、を理解する。解剖学では、基礎医学の講義の最初として、高校生物学の復習から講義を開始する。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	基礎医科学	生理学	○	前期で学んだ解剖学と関連づけながら、各器官系の機能と、その調節機構を講義する。各器官系は有機的に連携しながら体内の恒常性の維持に働いているので、実際の講義では、各器官系の相互関係に触れながら講義を進めて行く。病気の際に体内でどのようなことがおこっているか、を理解する。生理学では、とくに機能面に重点を置いて、「ヒトのからだ」について講義を行い、代表的な病気の病態生理にも随時触れながら、理解を深めていく。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	基礎医科学	生理学実習		養護教諭の職務に密接に関連する基本的な生理機能検査を理解し、体験することで、実習項目の理論、結果の解釈を説明できるようになり、自ら実施できるようになることを実習の目的とする。5～6人の班に別れ、授業テーマに記載した検査項目をローテーションしながら、お互いを被験者として、あるいは自らの検体を用い、実施する。実習終了後は、班ごとに実習を振り返り、その実習項目の意義、結果の意味を考察する。それをレポートにまとめ、提出する。この実習は、3人の教員が共同で担当する。	共同

専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	基礎医科学	微生物学・免疫学	○	学校現場でも地域でも、最も頻度の高い疾患である感染症と、その原因となる多様な微生物について学ぶ。また、感染防御にとどまらず様々な疾患から体を守る免疫系と、免疫系の異常に起因し、その頻度の高さと時に命の危険を生じることから、学校現場でしばしば問題となるアレルギーについて学ぶ。養護教諭の職務と感染症、免疫との関連は深く、感染症、アレルギーの児童・生徒の状態を正しく把握し、予防や治療の基本概念を理解するには、微生物学・免疫学の知識が不可欠である。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	基礎医科学	薬理学	○	この科目では、薬の一般的性質を知り、疾病の治療に用いる薬が生体に対してどのように作用するかを学ぶ。養護教諭を目指す学生を対象にした授業であることから、身体の生理作用に対して、薬がどのように関与し治療効果を発揮するか、キープointを中心に講義する。また好ましい面だけでなく、必ず副作用が伴うこと等を講義する。到達目標は、1. 疾病の薬物治療における有用性と有害性(副作用)を理解する、2. 上記理解により、治療薬を用いながら学校生活を送っている子どもの支援(観察、指導)ができるようになる、としている。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	基礎医科学	病理学		病理学では、病気の成り立ちを学ぶ。生理学・解剖学と臨床科目をつなぐものとして、多くの病気の背景となる正常機能の破綻とその結果を理解する。それにより病気の機序、症状を暗記するのではなく、なぜそうなるのかを理解できるようになることを目的とする。本講義では、病理学総論を機能面に重点をおいて講義する。疾患の発症とは、正常の機能の破綻に他ならないので、1年生で学んだ正常の生体制御機構の知識を土台としながら、その破綻としての病気のメカニズムの基本を学ぶ。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	基礎医科学	生化学		生化学では、養護教諭として必要な病気についての知識を学ぶ前に、正常の人体の成り立ちと機能について、関与する物質の面から学ぶ事を目的とする。異常を学び理解するためには、まず正常を学ぶ必要がある。また、健康維持のために重要な食事・栄養について学ぶための事前の必須知識として、人体を構成する基礎となる種々の栄養素について物質レベルで学習する。これにより各種疾患の病態を分子レベルで理解するための基本的な知識と、栄養学の基礎を身につける。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	基礎医科学	栄養学 (食品学を含む。)	○	本授業の目的は、健康な体を維持するために必要な栄養素とその代謝、栄養素を含む食品について基礎的な事項を理解させることである。そのために、食品学、栄養学の基礎的な内容、食品成分の化学構造、体内での変化と作用、食品の種類、機能性や安全性を概説する。これにより、健康を維持するために必要な栄養素等をどうすればバランスよく摂取できるかを理解し、指導できるようになることをねらいとする。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	看護学概説 I	○	看護学の基礎理論および臨床実践を理解し、養護活動へ応用することを目的とする。具体的には、看護学理論を講義形式で学んだ後、養護活動のプロセスにどのように活かしたらよいか、内科的主訴を持つ複数の子供の事例を用い、観察、アセスメント、問題と対応の判断(推測)、対応後の評価アセスメントをグループワークで経験させる。また、持病を持つ子どもに対する学校と病院の連携および臨床看護学(小児看護学、成人看護学)について、大学病院の地域医療連携副看護部長や小児科師長(教育学部臨床教授)および保健学系の臨床看護経験豊富な教員より教授してもらう。到達目標として、主要な看護学理論の理解、看護過程の理解と養護活動への応用の仕方(思考方法)の習得、持病を持つ子どもの健康管理のための学校と医療機関の連携の実践について知り考えることができることとする。	

専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	看護学概説Ⅱ	○	この科目では、学校現場において養護教諭に必要な基礎看護技術について学ぶ。具体的な基礎看護技術として、「環境整備」、「安全管理」、「観察」、「コミュニケーション」、「創傷の処置」、「包帯法」、「巻法」などを扱い、理論について概説し、演習により理解を図る項目もある。到達目標は、養護活動における看護の具体的な技術（環境整備、安全管理技術、観察技術、包帯法、コミュニケーション技術）について理解する、としている。なお、この科目で理解した技術については、看護学実習Ⅰで実習として学んでいく。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	看護学概説Ⅲ		この科目では、負傷や病気を罹患した児童生徒や障がいと共に学校生活を送る児童生徒を支援する上で必要な看護技術を学ぶ。具体的には、援助技術の基礎となる「ボディメカニクス」の重要性を理解させた上で「体位変換・移動の援助」、「食事の支援」、「排泄の支援」、「清潔の支援」など日常生活援助技術や、「医療的ケア」等について概説する。到達目標は、養護教諭に必要な基礎看護技術（ボディメカニクス、日常生活援助）と理解し、医療的ケアにおける養護教諭の役割を考慮することができる、としている。なお、この科目で理解した技術については、看護学実習Ⅱで実習として学んでいく。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	看護学実習Ⅰ	○	この科目は、看護学概説Ⅱで学習した技術を中心に養護教諭として必要な看護技術を実習を通して修得する。項目により、1グループ、3～4人が2～3人で実習するが、看護者役、患者役、観察者を交代で経験できるよう計画する。実習項目として、初回に衛生的な環境を整備し、感染予防の基本となる手指衛生を習得する。その後、保健室で必須となる観察や救急処置時に実践する技術を体験する。到達目標は、1.身体面の観察技術を習得し、収集した身体情報をアセスメントできる、2.保健室で実践する看護技術を習得できる、3.看護を受ける経験をを通して、よりよい看護について検討できる、としている。この実習は、佐藤がデモンストレーションから実習終了まで主に担当するが、学生の実習場面においては秋月准教授も共同で実習指導にあたる。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	看護学実習Ⅱ	○	この科目は、看護学概説Ⅲで学習した技術を中心に養護教諭として必要な看護技術を実習を通して修得する。児童生徒の負傷や疾病罹患時、障がいや家族背景に応じて必要となる日常生活を支える技術について実習する。また医療的ケアを受けながら学校生活を送っている児童生徒の支援について実習を通して理解を深める。到達目標は、1.保健室で実践する基本的看護技術を習得できる、2.養護教諭として実践・指導しうる日常生活援助について習得する、3.医療的ケアを受ける児童生徒が学校生活を送るための支援を理解する、4.看護を受ける経験をを通して、よりよい看護について検討できる、としている。この実習は、佐藤がデモンストレーションから実習終了まで主に担当するが、学生の実習場面においては秋月准教授も共同で実習指導にあたる。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	内科学		内科学は、様々な疾患を理解する上で基本となる学問である。養護教諭が学校現場で遭遇する可能性の高い疾患について講義し、それら疾患の可能性を見落とす事無く、適切に対応できるようになることを目的とする。授業を通じて、生徒の種々の身体的訴えへの対応の基本、病気への基本的な対処法を理解し、身に付ける。 (オムニバス方式/全15回) (3 後藤 知巳/13回) 内科的な疾患を思春期～青年期に発症するものを中心に担当する。 (13 江良 択実/2回) 血液、免疫疾患について担当する。	オムニバス
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	皮膚科学		この科目は、皮膚の生理的役割や機能を理解し、様々な皮膚疾患の病態、病理組織学、発症機序を理解する事を目的とする。内容として、皮膚の構造や機能など基礎的知識から皮膚疾患の病態、病理組織学、検査、治療に至るまで、系統的な学習を行う。到達目標は、1.基本的な皮膚病変の臨床像、病理組織像を学習する、2.皮膚病変の病態を知るとともに、診断に用いる検査法や治療法について理解する、3.皮膚症状と内臓疾患との関連を理解する、としている。解剖生理・検査、表在性皮膚疾患、脈管系の皮膚疾患等、腫瘍・色素異常が各1回、感染性・内臓疾患等で3回講義する。	

専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	小児科学		児童生徒の身体や心の疾患の病態・症状・診断・治療などを理解し、養護教諭として必要な医学的基礎知識を身につけることを目指している。具体的には、まず小児の正常な成長発達、栄養、事故・虐待、予防接種など小児の一般的な健康について学ぶ。さらに学校感染症、アレルギー疾患、臓器別の疾患について病態・症状・診断・治療について詳細に学ぶ。養護教諭として必要な医学知識を修得し、学校における看護技術、保健指導やヘルスカウンセリングの基礎を培う。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	外科学	○	この科目は、オムニバスで行われ、8名の外科医が1コマずつ講義を行う。外科学領域の疾患の診断法・治療法ならびに代表的な疾患の病態生理・診断・治療・管理・予後について理解する。また、学校現場で遭遇する救急状態の把握、処置法等について学ぶ。さらに、外科学領域の疾患の成り立ちと回復の促進、代表的な症状の起こりのメカニズム、一次対応法、従来からの診断法に加えて最新の検査機器による診断法、代表的な内科的・外科的治療方法、術後管理の方法について学ぶ。これを基本として、各回を分けて病態生理、診断方法、治療方法、学校での観察・管理方法、予後、インフォームドコンセントの方法についての詳細を学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (14 福井 寿啓/1回) 循環器疾患について担当する。 (15 山本 豊/1回) 乳腺・内分泌疾患について担当する。 (127 池田 公英/1回) 呼吸器疾患について担当する。 (128 林 洋光/2回) 外科総論、消化器疾患について担当する。 (252 本田 正樹/1回) 小児疾患について担当する。 (253 植川 顕、254 竹崎 達也/各1回) 頭部(脳)疾患について担当する。	オムニバス
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	整形外科学		整形外科は運動器疾患の診断・治療・予防を行う診療科であり、運動器とは身体活動を担う筋・骨格・神経系の総称であり、筋肉・腱・靭帯・骨・関節・神経・脈管系などの身体運動に関わる組織・器官によって構成されている。代表的な運動器疾患について理解することを目的とする。内容として、運動器の意義と整形外科の役割、代表的な運動器疾患について概説し、運動器の意義と整形外科の役割を理解させる。それにより、代表的な運動器疾患についての基本的かつ重要な知識を会得する。この科目は、「整形外科と運動器」(1回)、「下肢疾患」(2回)、「上肢疾患」(2回)、「脊椎疾患」(1回)、「骨軟部腫瘍」(1回)の講義を行う。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	眼科学		この科目は、眼の解剖生理を理解し、主な眼科的検査、眼科的疾患の病態・治療・看護についての基礎的な知識を深めることを目的とする。内容として、眼科看護に必要な眼の解剖生理、眼科的検査、代表的な眼科疾患について扱う。また毎回、前回までの内容の重要項目を復習しながら解説する。到達目標は、1.眼の解剖生理を理解する、2.主な眼科的検査の方法を理解し実践できる、3.主な眼科的疾患を理解し必要な対応ができる、としている。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	歯科学		この科目では、歯科口腔外科の基礎的知識と歯科口腔外科領域の疾患についてその概要を修得することを目標とする。内容は、口腔・顎顔面の解剖と生理、疾患の検査や診断、治療の他、口腔顎顔面に疾患のある患者の看護の要点を解説し、症例検討などを行う。到達目標は、1.口腔・顎顔面の疾患の病態、検査、診断、治療、看護について概説出来る、2.症例検討を通じ口腔・顎顔面に疾患のある患者の心理的・社会的支援の必要性などを概説出来る、としている。	

専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	耳鼻咽喉科学		この科目では、学校生活で遭遇することが想定される耳鼻咽喉科領域の問題に適切に対応できることを目的とする。内容は、耳鼻咽喉科領域の解剖、検査、小児・学童 若年者が罹患しやすい疾患・病態について解説する。また、耳鼻咽喉科領域の問題を抱えた小児に対する対応、病院ではどのような検査・治療を行っているか、学校生活において配慮すべき点などについて述べる。これにより、学校生活で遭遇することが想定される耳鼻咽喉科領域の問題に養護教諭として適切に対応できることを目標とする。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	産婦人科学		養護教諭に必要な産婦人科学の知識を習得することをねらいとして授業を行う。思春期に多いリプロダクティブヘルス問題だけでなく、予防的観点から、各発達段階において知っておくべきリプロダクティブヘルス問題についても授業を行う。特に、思春期および性成熟期・更年期・老年期の課題については、当該分野を専門とする医学部准教授および保健学科教授の産婦人科医師に教授いただく。その際、養護教諭になる学生という視点で、リプロダクティブヘルスの問題のある子どもたちへの対応についても具体的に享受してもらおう。また、基本的な生殖の生理、妊娠・出産・産褥・新生児・乳児の生理についても教授する。到達目標として、子どもたちのリプロダクティブヘルスの維持向上、疾病予防のための知識を習得し、学校現場での子どもへの対応や保護者を含めた支援の在り方について考えることができることとする。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	精神保健学	○	この科目では精神障害についての理解を深め、メンタルヘルス不調者に対する支援の重要性について学習する。内容は、各種精神疾患について、症例を提示しながら、診断、症状、病態、治療・対応について講義する。また社会的な背景などについてもできるだけ触れたい。到達目標は、1.精神疾患に関する知識を獲得し理解する、2.メンタルヘルス不調者への接し方・対応に関する基礎的知識を得る、としている。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	臨床実習Ⅰ	○	患者に関わること、医療看護の現場に身を置くことで、人々の人生、生命、生活について深く考え、尊重の心を持つことができる。そして養護教諭として、子どもたちの健康管理や支援に生かすことができるよう、本実習を行う。熊本大学病院で実習する。二つの病棟で、4日間ずつ（計8日間）病棟実習する。病棟実習に先立ち、各病棟師長および部署管理者、院内学級教諭の講話、手術室やNICU、院内学級の見学を行う。病棟実習では、各学生がPNS（パートナーシップナーシング）看護師について、観察やバイタルサイン測定、日常生活援助への一部参加、患者とのコミュニケーション、検査、指導等の見学を行う。本実習の到達目標として、①人間理解（患者理解）、②病気と検査治療の理解、③臨床看護の役割その活動の理解、④病院という場と連携の理解、⑤①～④の学びから、養護教諭として必要な基本的技能の習得し、学校での養護教諭の活動にどのように生かすことができるか具体的に考え表現できることとする。この実習は、3人の教員が共同で担当する。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	臨床医科学・看護学	臨床実習Ⅱ		この科目は、障がいを持つ児（者）とその方に必要な支援について理解し、障がい児（者）が学校生活を安全に楽しく送るための、養護教諭としての支援の在り方について考えることをねらいとする臨床実習である。実習は、医療福祉施設（重症心身障害児施設）の病棟と多機能事業所（通所施設）、特別支援学校の分教室で行う。実習前に、施設見学とオリエンテーション、専門家の講話、事前課題を通して、障がい児（者）や施設の概要をつかめるようにしている。実習目標は、1.重症心身障害児（者）を身体面、発達面、心理面、社会面から理解する、2.障害のある子どもへ行われる療育について学ぶ、3.重症心身障害児（者）へ行われる看護について学ぶ、など7つ掲げているが、実際に障がい児（者）と関わることで、特別な配慮を必要とする子どもを支援しようとする態度を養うという意義は大きい。この実習は、3人の教員が共同で担当する。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	学校保健Ⅰ（小児保健を含む。）	○	学校保健安全法など学校保健に関わる法的根拠の理解、児童生徒の学校における健康課題の理解、養護教諭の職務の理解、専門家や専門機関との連携とそのコーディネーター的役割の理解を目指している。まず、学校保健の意義と構造、児童生徒の現状、小児の心身の成長発達、学校保健計画、保健教育と保健指導・保健組織活動、健康相談・健康観察・健康診断、学校感染症とその対策、心身の健康課題への対応、学校環境衛生基準、保健室経営、学校給食と食育、飲酒・喫煙・薬物乱用防止などについて学ぶ。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門家との連携、医療機関・児童相談所などの地域関係機関との連携などチーム学校における連携の窓口としての養護教諭のコーディネーター的役割について学ぶ。養護教諭の職務の基礎と保健に関する知識を身につける。	

専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	学校保健Ⅱ (小児保健を含む。)		養護教諭として学校保健に関する知識を習得するために、学校保健Ⅰで学習したことを更に深化し、事例等を通して対処できることを目指している。まず、健康相談・健康観察・健康指導の実際、食物アレルギー、結核や麻疹など学校感染症、児童虐待、いじめ・自殺、心のケアなどについて文献、事例を通して学ぶ。その上でそれぞれの事例について学生自身で考えられる対処を考察する。養護教諭の職務や保健に関する知識をさらに深める。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	学校保健Ⅲ		児童生徒定期健康診断全般について、実地体験（発育測定を中心とした視力・聴力等の測定、各種検診等への参加）を通して、以下の目標を達成できるようになる。 ・健康診断は教育活動の一環であり、学校保健の中心的活動であることを実際に体験するとともに教育課程における位置付けと関連法規をこの機会に学習する。・健康診断が学校組織の中で、どのように総合的・組織的に行われているかを知る。・健康診断計画の実際と、各学年の児童・生徒の実態を知るとともに、諸検査を実際に行うことにより技術を体得する。・4月当初の学校行事運営の一端を知る。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	養護学概論Ⅰ	○	養護教諭が今日に至るまでの制度や職務の変遷、各種答申に示された養護教諭の専門的機能・役割、養護の概念、養護教諭の専門的機能など「養護」全般について概説する。また、養護教諭の執務の根拠地である保健室の機能や保健室経営の基本、保健室経営計画、保健室の施設設備、保健室に備える諸帳簿等、養護活動計画について考える。さらに学校保健の構造、学校保健組織活動について概説し、学校保健を組織的に推進するためのマネジメントの在り方と教職員間の連携を図るためコーディネートについて学ぶ。特に、保健教育においては、養護教諭が行う教育・指導や教科である保健科だけでなく、その他の教科や特別活動において、それらの特長を活かして行われる保健教育を含めた、学校全体の健康教育の充実に心身の問題の専門家として関与でき、全体のカリキュラムマネジメントを考えられるようにする。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	養護学概論Ⅱ	○	学校保健の構造とその内容を理解し、学校保健活動に果たす養護教諭の役割について考える。養護活動の進め方について、学校保健の中心的活動である児童生徒等の定期健康診断・臨時健康診断について、健康診断の意義・目的、実施時期、健康診断の項目、実施学年、実施手順、実施計画等について、演習を取り入れながら学ぶ。また、保健室のマネジメント、職員の健康診断、就学時健康診断、健康観察の意義とすすめ方（学級担任が行う心身の健康観察、養護教諭が行う心身の健康観察）等、保健管理領域の内容を中心に学ぶ。学校全体の保健教育に関するカリキュラムマネジメントについても、学外の専門家との連携のあり方や、他の科目で学んだことも取り入れながら、養護概論Ⅰに引き続いて学んでいく。さらに、児童生徒の課題解決や保健教育に活用したい学校外の機関や人材（専門職）について理解し、連携を実現するためのコーディネートについて学ぶ。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	衛生学	○	ヒトの健康に影響を及ぼす要因としての自然環境や社会的環境について理解し、環境衛生について説明できるようになることを目指す。具体的には、空気、水、環境汚染などの自然環境の概要と現状、健康への影響を学習する。また社会的環境については、労働に関する内容を中心に産業の健康への影響について学ぶ。最終的には、①自然における様々な環境要因について解説出来るようになる。②特に人体への影響についてその相関を考察できるようになる。③生活の場などで衛生的な問題意識を持てるようになる、ことを目標とする。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	公衆衛生学Ⅰ	○	公衆衛生学は集団の健康及びそれに関わる社会を対象としている。それ故、養護教諭に必要な集団における健康について学ぶ上で、その概要や解析方法を理解することが必要となる。本授業科目では、まず、①公衆衛生という概念について、成立の歴史や現代における問題点について学習し、公衆衛生学の概要を把握する。次に、②集団の健康に関する様々な指標を理解し、説明出来るようになる。さらに、③疫学を中心とした保健統計の考え方、やり方について学び、保健統計などを自ら活用できるようになる。	

専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	公衆衛生学Ⅱ		公衆衛生学Ⅱに引き続き、公衆衛生の各領域を具体的に学習する。公衆衛生はその対象、活動の場所や規模によって様々に分類される。ここでは、健康教育とヘルスプロモーション、精神保健福祉、難病対策などのように、異なる対象における公衆衛生活動について学習する。さらに、より具体的に統計学の手法を理解するために必要とされる基礎的な知識を提供する。統計データの取り扱い方や意義、簡単な推定・検定を行う能力の習得を目指す。最終的に、公衆衛生学Ⅰとともに、様々な公衆衛生活動の詳細を知ることによって総合的に公衆衛生学を理解することを目標とする。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	公衆衛生学実習		養護教諭として学校内における子供達の健康教育を行う上での基礎的な知識・技術の習得、ならびに学校衛生の実践について学ぶ。また、学校外との連携についても理解・実践できることを目指す。これまで授業で学んできた学校環境衛生上の要因、特に、水、大気、衛生害虫などについて、それぞれに対しての測定実験を実際に行い、学校環境衛生管理の実施について学び、学校環境衛生基準の設定根拠について理解し説明できるようになる。さらに、保健所等施設の実際の活動を知る事により、養護教諭として、公的な機関と協力して学校、青少年の課題に取り組む必要性、方法を学ぶ。この見学実習部分は、熊本市および熊本県の複数の保健所等施設職員らによる講話で行われる。公衆衛生行政の実態、地域の衛生状態及び保健活動、行政による青少年の問題への取り組みを見学及び講話により体験することで、併せて保健所等施設の重要性を理解し、健康教育者としての認識を深めることを目標とする。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	予防医学	○	疾病の原因・病態が解明されるにつれ、予防医学の重要性が明らかになってきている。この授業では、健康増進と疾病予防について実践的な内容を通して理解し、将来、養護教諭として学校現場で有用な予防医学の知識を修得することを目指している。まず、健康の概念、実態、その規定要因について学ぶ。次に、感染症や生活習慣病、慢性疾患、がんなどの疾病を通して一次予防（健康増進、特異的予防）、二次予防（早期診断、早期治療）、三次予防（悪化の防止、リハビリテーション）について学ぶ。生涯にわたる健康増進と疾病予防の知識を修得し、養護教諭として学校における健康教育の基礎を培う。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	学校救急処置Ⅰ	○	この科目では、養護教諭が学校で遭遇する児童生徒の訴えに対して、必要な情報を収集および分析し、的確な対処を行うために必要な知識を解説し、主体的に学ばせる。内容は、学校で行う救急処置の基本、代表的な外傷に対する問題分析・判断・救急処置・保健指導・事後処理について取り扱う。到達目標は、1. 養護教諭が行う救急処置の目的、範囲、過程について説明できる、2. 学校で見られる主な外傷に関する観察ポイントおよび処置方法について説明できる、3. 傷病に応じたフィジカルアセスメントおよび救急処置（止血等）を実践できる、としている。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	学校救急処置Ⅱ	○	この科目は、養護教諭が学校で遭遇する児童生徒の訴えに対して、必要な情報を収集および分析し、的確な対処を行うために必要な知識を解説し、主体的に学ばせる。内容は、学校救急処置Ⅰで学んだ救急処置の過程を踏まえ、代表的な内科的主訴に対する問題分析・判断・救急処置・保健指導・事後処理について理解を図る。到達目標は、1. 学校で見られる主な内科的症状に関する、観察ポイントおよび処置方法について説明できる、2. 傷病に応じたフィジカルアセスメントおよび心肺蘇生法（AEDを含む）を実践できる、としている。	
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	学校安全	○	養護教諭として学校安全の考え方を習得し、現状分析と対処のための基本を身に付けることを目指している。この科目はオムニバスで行われ、最終の報告会は3名が共同で関わる。学生自ら事例を選択し、養護教諭として学校安全の現状分析と基本的な対処法をレポートにまとめる。学んだ事例を発表し学生全員で情報共有し、学校安全、安全管理について説明でき、養護教諭として学校安全の現状分析と対処のための基本を身に付ける。 (オムニバス方式/全8回) (2 大沼 久美子/3回) 学校現場での実際の安全管理について担当する。 (9 佐藤 伸子/3回) 学校管理下の災害の実態と事故防止について担当する。 (210 仲里 仁史/2回) 学校安全の概念について担当する。	オムニバス

専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	健康相談活動の理論	○	健康相談・健康相談活動の歴史と変遷を概説し、健康相談活動の定義を理解する。児童生徒の心身の健康課題の現状と課題を踏まえ、養護教諭の職の特質や保健室の機能を活かした健康相談・健康相談活動について考え、健康相談・健康相談活動のプロセスとその進め方の基礎・基本を理解する。健康相談・健康相談活動を実践するために必要な資質能力、実践を支える諸理論や必要なカウンセリング技法など、基本的な知識や対応技術について学ぶ。
専門教育科目	専門科目	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	教育保健	健康相談活動の方法		健康相談活動を行うにあたり必要な対応技術・技法等について演習を通して学習する。健康相談活動の実際について、保健室を想定した種々の初期対応の場面設定や事例によりロールプレイやグループ活動等の演習を通して学ぶことにより、養護教諭のヘルスアセスメント、カウンセリング能力を身に付けることを目指す。さらに、保健室登校や今日の健康課題の問題に応じた対応について学びを深め、支援のために連携する関係者・専門機関について理解し、チームで進める健康相談・健康相談活動のあり方について理解を深める。
専門教育科目	専門科目	教科の指導法			中等保健科指導法Ⅰ	○	保健科教育の歴史、背景を概観した上で保健教育における位置づけについて理解する。基盤となる小学校での教育内容を理解した上で、中学校、高等学校における「保健」の教育目標や教育内容とその系統性、指導計画、カリキュラムの基礎基本について、学習指導要領、指導要領解説、教科書を踏まえ、学習する。また他教科との関連と学習者の実態把握、情報リテラシー等についても理解し、保健科教育を実践するための基礎知識と技術を修得する。
専門教育科目	専門科目	教科の指導法			中等保健科指導法Ⅱ	○	中学校「保健分野」の目標や内容、指導計画、学習指導案作成により模擬授業を実践または観察し、自己評価ならびに他者評価を通して実践的な指導力を修得することを目標とする。まず、中学校「保健分野」の目標・内容に基づいた指導計画、学習指導案について学習し、実践例に学ぶ。その後、個人またはグループで、1単位時間の指導計画、学習指導案作成、模擬授業の実践に取り組み、自己評価・他者評価から授業評価を行う。担当授業以外の時間は、学習者あるいは観察者として模擬授業に参加し、授業者とともに授業研究を深める。
専門教育科目	専門科目	教科の指導法			中等保健科指導法Ⅲ		高等学校「保健」の目標や内容、指導計画、学習指導案作成により模擬授業を実践または観察し、自己評価ならびに他者評価を通して実践的な指導力を修得することを目標とする。まず、高等学校「保健」の目標・内容に基づいた指導計画、学習指導案について学習し、実践例に学ぶ。その後、個人またはグループで、1単位時間の指導計画、学習指導案作成、模擬授業の実践に取り組み、自己評価・他者評価から授業評価を行う。担当授業以外の時間は、学習者あるいは観察者として模擬授業に参加し、授業者とともに授業研究を深める。
専門教育科目	専門科目	教科の指導法			中等保健科指導法Ⅳ		保健科教育法Ⅲで学んだ中学校「保健分野」の授業づくりに関する内容や、模擬授業による授業研究を踏まえ、保健科教育法Ⅳでは、さらに中学校「保健分野」の単元の内容を取り上げ、個人またはグループで、1単位時間の指導計画、学習指導案作成、模擬授業の実践に取り組み。担当授業以外の時間は、学習者あるいは観察者として模擬授業に参加し、授業者とともに授業研究を行う。模擬授業後は、授業研究会を行い、自己評価・他者評価から授業評価を行い、教材研究、授業研究を深化させていく。
専門教育科目	専門科目	教科の指導法			性に関する指導		性に関する指導の理論を学び、指導の実践の概要について知ることを目的とする。我が国の性教育関連の指針、国際的性教育ガイドライン、性に関する児童生徒の全国調査結果、リプロダクティブヘルス上の課題等、理論と現状の課題について学習する。理論に引き続き、性に関する豊富な指導経験をもち、実践研究を重ね自己研鑽されている小学校、中学校、高等学校の養護教諭に実地指導講師として授業を担当してもらい、校種別養護教諭による学校現場での性に関する指導の実際を学ぶ。
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目			教育実践研究指導法演習		種々の体験活動等を通して、子どもたちとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解し、実践的指導力の基礎を身につけることができる。教育学部学生がボランティアとして、熊本市内の公民館、熊本市教育委員会生涯学習課、熊本県生涯学習推進センター等と連携・協力しながら、子どもとかわる種々の体験的活動等を自主的・主体的に企画・実施し、体験的活動等を通して、主として公立小・中学校の子どもたちと触れ合い、子どもの気持ちや行動を理解できるようになる。
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目			教育臨床体験演習		教育相談や生徒指導に関連して、現代の教育現場における様々な課題の中でもクローズアップされている不登校の児童・生徒の理解と支援に関して体験的に実態を学び、教師としての資質向上を図る。具体的には熊本市との連携事業として行っているユア・フレンド事業での研修と体験活動を通して、教育相談や生徒指導に関しての児童生徒の理解と知識・技能の習得を深める。熊本市教育委員会と教育学部が連携しておこなっているユア・フレンド事業の体験活動と活動のまとめを通して得られた体験的知識の習得につとめる。演習は2名の教員が共同で行う。
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目			教職実践基礎セミナー	○	教員として求められる4つの事項「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒の理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項」を踏まえ、実践的指導力を有する教員としての自覚と基礎的な資質を育成する。前期「学校・教育現場の観察・体験を通して、現在の学校や教育現場の実態、児童生徒像について理解を深める。後期「学校・教育現場の観察・体験を通して、現在の学校や教育現場の実態、児童生徒像について理解を深める。さらに、1年間の演習を総括して学校体験を多面的に省察し、教育学部における自らの学びに関する課題を明確化する。

専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本・学びの最前線	○	学校現場でも活用できるプレゼンテーションに関する知識・技能の獲得をして、実際に活用できる力を修得できる。児童・生徒が効果的に情報活用能力を身につけるために教員として必要な技能・考え方の基礎概念を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (4 田口 浩継/3回) 第1回～3回を担当する。 (11 前田 康裕/8回) 第4回～11回を担当する。 (1 大塚 芳生/4回) 第12回～15回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目	日本語教育指導探究	○	外国につながる子どもたちを日本の公立学校で受け入れる際に求められる日本語指導とは何かについて、県内の公立学校（地域拠点校）での観察実習や附属学校国際クラスでの教育実習の経験を踏まえて吟味・検討する。具体的には、(1)ことばの豊かさ、思考の豊かさ、こころの豊かさの関係について、(2)異文化間移動に表出する子どもの人格形成上の課題と日本語指導について、(3)対話型日本語能力測定から見た学校生活支援と教科学習支援について等の観点から考察を行う。	
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目	地域教育課題探究	○	①子どもたちに夢を与え子どもたちの夢を叶える教育とは、②地域発の教育改革・実行プランとは何か、③令和の時代の学校教育に求められる教員の資質・能力とは何かについて、2週間にわたる宿泊型教育実習を通じた学修内容を踏まえ、ローカルかつグローバルな視野から探究し省察する。子どもの視点に立った地域発の教育改革プランの実践について深く学び、子どもが主体となる授業運営・学級運営・学校運営のあり方について教育実習のレベルで省察し、ローカルな視点とグローバルな視点を融合させながら令和の学校教育に求められる教員の資質・能力とは何かについて、再帰的に学び探究する態度や姿勢を身につける。	
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目	グローバル教育課題探究	○	教育の国際化に向けて、学習指導要領の内容を日本語と英語で授業を行なうイメージ教育とは何かについて、県内の公立学校（地域拠点校）での観察実習や附属学校国際クラスでの教育実習の経験を踏まえて吟味・検討する。具体的には、(1)言葉の発達と概念獲得のあいだに言語の違い（母語と外国語）はどのように影響するか、(2)語彙が安定的に増えて行く際に記憶はどのように働くか、(3)教育のDX化はイメージ教育にどのような効果をもたらすか等の観点から考察を加える。	
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目	教育評価		指導と評価の一体化という考え方を理解し、評価を教育実践に活かす具体的な方法を考えることができることを目標として、教育評価の目的を問い直し、その歴史的位置づけや機能や様々な評価方法の特徴について解説し、教育実践において評価を用いる意義や適切な評価方法について解説する	
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目	人権教育論		以下のさまざまな観点から、現代日本の人権問題について考えながら、21世紀の人権教育及び共生社会のあり方を考える。①人権の原理を知る、②人間の性と人権について知る、③定住外国人の人権について知る、④ハラスメントについて知る、⑤子どもの権利について知る。多様なゲスト・スピーカーを迎え、より具体的、実践的に人権教育について考えることができるようにする。	
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目	教職保健		本授業は、学校保健および学校安全に関する法律や制度の概要、子どもの心身の健康の保持増進および健康や安全に関する医学的知識や情報、さらに健康安全に関する具体的な効果的な指導法や現代的健康課題への対応など、学校保健・学校安全に関する知識の修得とその活用を目指した授業実践や事例検討を行う。 (オムニバス方式/全15回) (2 大沼 久美子/11回) 第1回～3回、第6回～10回、13～15回を担当する。 (8 長谷 真/2回) 第4回～5回を担当する。 (6 秋月 百合/2回) 第11回～12回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目	学校経営学		本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎的知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の3点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。	
専門教育科目	専門科目	大学が独自に設定する科目	児童・生徒の性的問題に係る教育支援		本講義では、児童・生徒による性加害の予防と対応に焦点を当て、性加害を行う子どもの心理や、彼らを取り巻く環境の特徴について学ぶ。性加害に関する基礎知識を習得した後、専門的な教育的介入法を紹介し、実践的な対応方法を考察する。さらに、性加害を防ぐための学校全体での取り組みや、関係機関との連携の重要性についても触れる。特に、教師として性加害を起こした児童・生徒を理解し、チームワークを活かしてどのように支援するべきかを学ぶ。これにより、児童・生徒が性加害行動を起こした際、冷静かつ適切な対応ができる力を養うことを目指す。実際の場面で役立つ知識と技能を身につけるため、ケーススタディを通じた実践的な学びを重視する。	
専門教育科目	専門科目		卒業研究	○	明確な研究題目の設定と方法論に基づく調査・研究を行い、卒業論文を執筆し、発表を行うことができるようになる。卒業研究を行い、探究的な学びに関する以下の資質・能力を高める。・取り組む課題の背景や研究の意義、動機を明らかにできる。・先行研究を調査し、取り組む課題の位置づけを行うことができる。・課題を解決する方法（観察、実験、調査、シミュレーションなど）を考え、解決を試みることができる。・成果をまとめて卒業論文を作成することができる。・成果をまとめて卒業論文の内容を発表することができる。	